

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2026年1月23日
【計算期間】	第35特定期間（自 2025年4月26日 至 2025年10月27日） DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型） 第35期（自 2025年4月26日 至 2025年10月27日） DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）
【ファンド名】	DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型） DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）
【発行者名】	ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 弘貴・ゲアハルト・ヴィースホイ
【本店の所在の場所】	東京都港区麻布台一丁目3番1号 麻布台ヒルズ森JPタワー
【事務連絡者氏名】	砂田 光
【連絡場所】	東京都港区麻布台一丁目3番1号 麻布台ヒルズ森JPタワー
【電話番号】	03(6730)1300
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンドは、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

信託金の限度額

各ファンドについて5,000億円を限度とします。

ただし、委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

基本的性格

当ファンドの商品分類及び属性区分は以下の通りです。

<商品分類表>

単位型投信・ 追加型投信	投資対象 地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立 区分	補足分類
単位型投信	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券		
追加型投信	内外	不動産投信 その他資産() 資産複合	MRF ETF	特殊型

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

<商品分類の定義について>

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく定義は以下の通りです。

- 「単位型投信・追加型投信」の区分のうち、「追加型投信」とは、一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
- 「投資対象地域」の区分のうち、「海外」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
- 「投資対象資産（収益の源泉）」の区分のうち、「債券」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

なお、上記は当ファンドに該当する分類について記載したものです。上記以外の商品分類の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<https://www.toushin.or.jp/>) をご参照下さい。

< 属性区分表 >

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ	対象インデックス	特殊型
株式		グローバル				
一般						
大型株	年1回	日本			日経225	ブル・ベア型
中小型株						
債券	<年2回決算型>	北米	ファミリー ファンド	あり ()		
一般	年2回					
公債	年4回	欧州				条件付 運用型
社債						
その他債券	年6回	アジア				
クレジット属性 ()	(隔月)	オセアニア			TOPIX	ロング・ ショート型/ 絶対収益追求 型
不動産投信	<毎月分配型> 年12回(毎月)	中南米				
その他資産(投資信託 証券(債券))	日々 その他 ()	アフリカ	ファンド・ オブ・ ファンズ	なし		
資産複合()		中近東 (中東)			その他 ()	その他 ()
資産配分固定型						
資産配分変更型		エマージング				

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

< 属性区分の定義について >

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づく定義は以下の通りです。

1. 「投資対象資産」の区分のうち、「その他資産」とは、目論見書または投資信託約款において、株式、債券及び不動産投信(リート)以外の資産を主要投資対象とする旨の記載があるものをいいます。なお、当ファンドは、投資信託証券を通じて実質的に債券に投資するため、商品分類表の「投資対象資産(収益の源泉)」においては「債券」に分類されます。
2. 「決算頻度」の区分のうち、「年2回」とは、目論見書または投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいい、「年12回(毎月)」とは、目論見書または投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいいます。
3. 「投資対象地域」の区分のうち、「欧州」とは、目論見書または投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
4. 「投資形態」の区分のうち、「ファンド・オブ・ファンズ」とは、一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
5. 「為替ヘッジ」の区分のうち、「なし」とは、目論見書または投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。

なお、上記は当ファンドに該当する属性について記載したものです。上記以外の属性区分の定義については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<https://www.toushin.or.jp/>)をご参照下さい。

ファンドの特色(以下は、ファンドが主として投資を行うマザーファンドの特色を含みます。)

1. 主として、ロシアの国債及び準国債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行います。

準国債：国が50%以上の株式を保有している企業が発行する債券（地方債も含まれます。）

当ファンドは、特化型運用を行います。当ファンドにおける特化型運用は、投資対象に支配的な銘柄が存在する、または存在することとなる可能性が高いため、当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、大きな損失が発生することがあります。

支配的な銘柄とは、投資対象候補銘柄の時価総額の合計額に対する一発行体当たりの時価総額の比率が10%を超える場合における当該発行体の発行する銘柄をいいます。

2. マザーファンドの主な投資対象であるDWS ロシア・ボンド・ファンドは、DWSインベストメント GmbH が運用を行います。

DWSインベストメント GmbHはDWSグループのドイツにおける拠点です。グローバルなネットワークを駆使し、投資家の多様なニーズに応える商品開発と優れた運用成果の実現を目指します。

DWS ロシア・ボンド・ファンドでは：

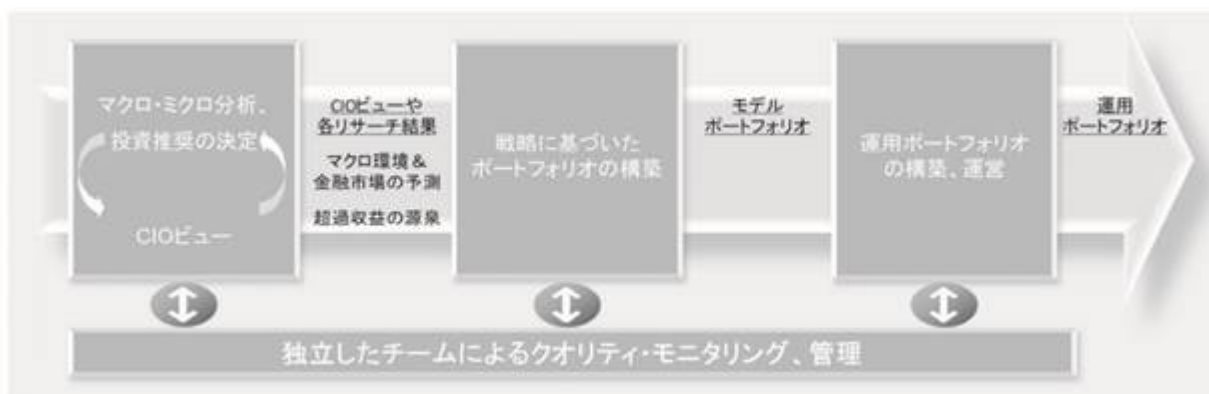
ルーブル建のほか、ユーロ市場等で発行される米ドル建/ユーロ建等のロシア債券に主に投資します。

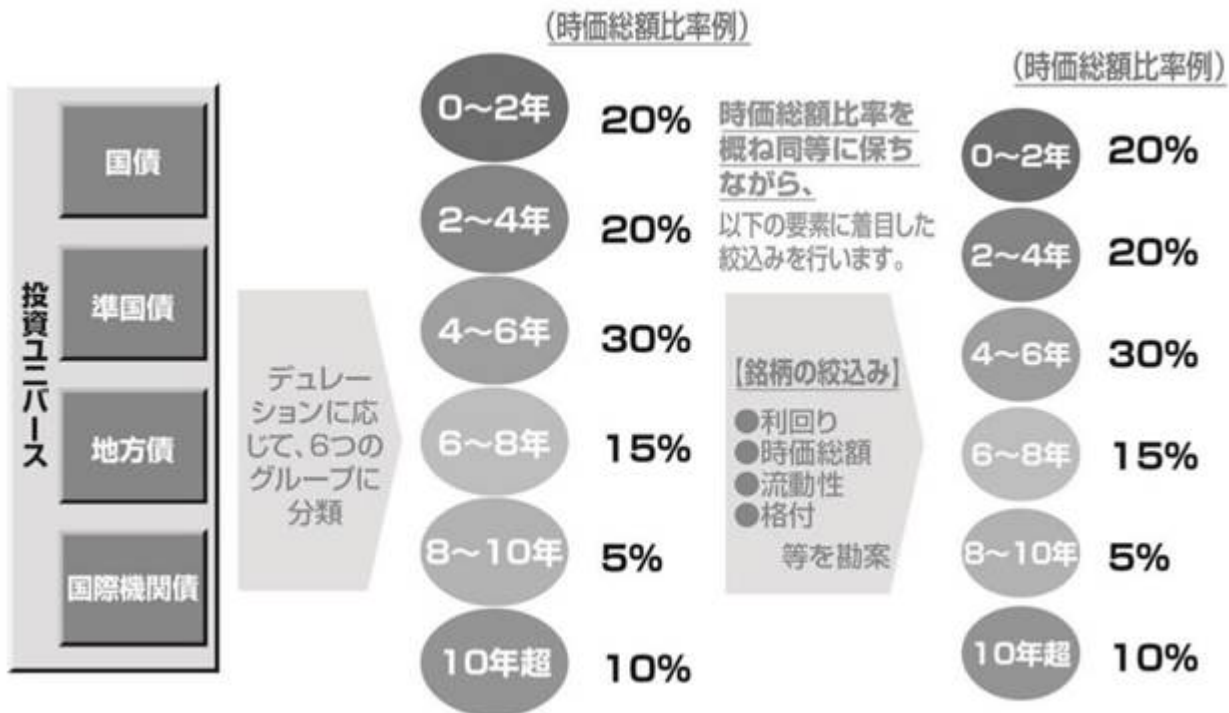
ユーロ市場等で発行される米ドル建/ユーロ建等のロシア債券に投資を行う場合には、原則としてルーブル建債券に投資を行う場合と同等の経済効果を目指した運用を行うため、実質的にルーブル建となるよう為替予約取引を行います。

< DWS ロシア・ボンド・ファンドの運用プロセス >

運用の基本方針に基づき投資対象の選定を行った後、投資ユニバースをデレーション に応じていくつかのグループに分類します。その際に算出したグループ毎の時価総額比率を概ね同等に保つことを目指しながら銘柄の絞込みを行い、ポートフォリオの構築を行います。

なお、以下に記載するグループの数、分類方法及び時価総額比率は、あくまでも本書作成時点のご参考として例示したものであり、実際のポートフォリオの数値とは異なります。また、将来の市場環境等の変動等により変更される場合があります。





債券投資の平均回収期間を示します。

3. 「毎月分配型」と「年2回決算型」があります。

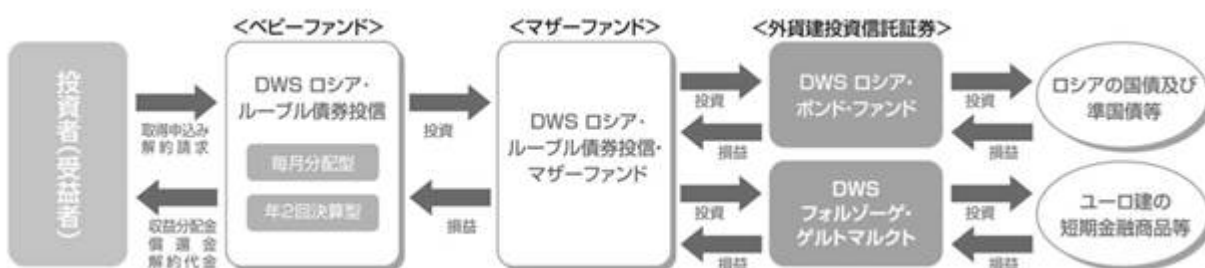
毎決算時（「毎月分配型」は、原則として毎月25日。「年2回決算型」は、原則として毎年4月25日及び10月25日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として収益配分方針に基づき収益分配を行います。

ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

（注）販売会社によっては、「毎月分配型」、「年2回決算型」どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。

4. 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

5. 当ファンドはファンド・オブ・ファンズ的方式で運用を行います。



（注）市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

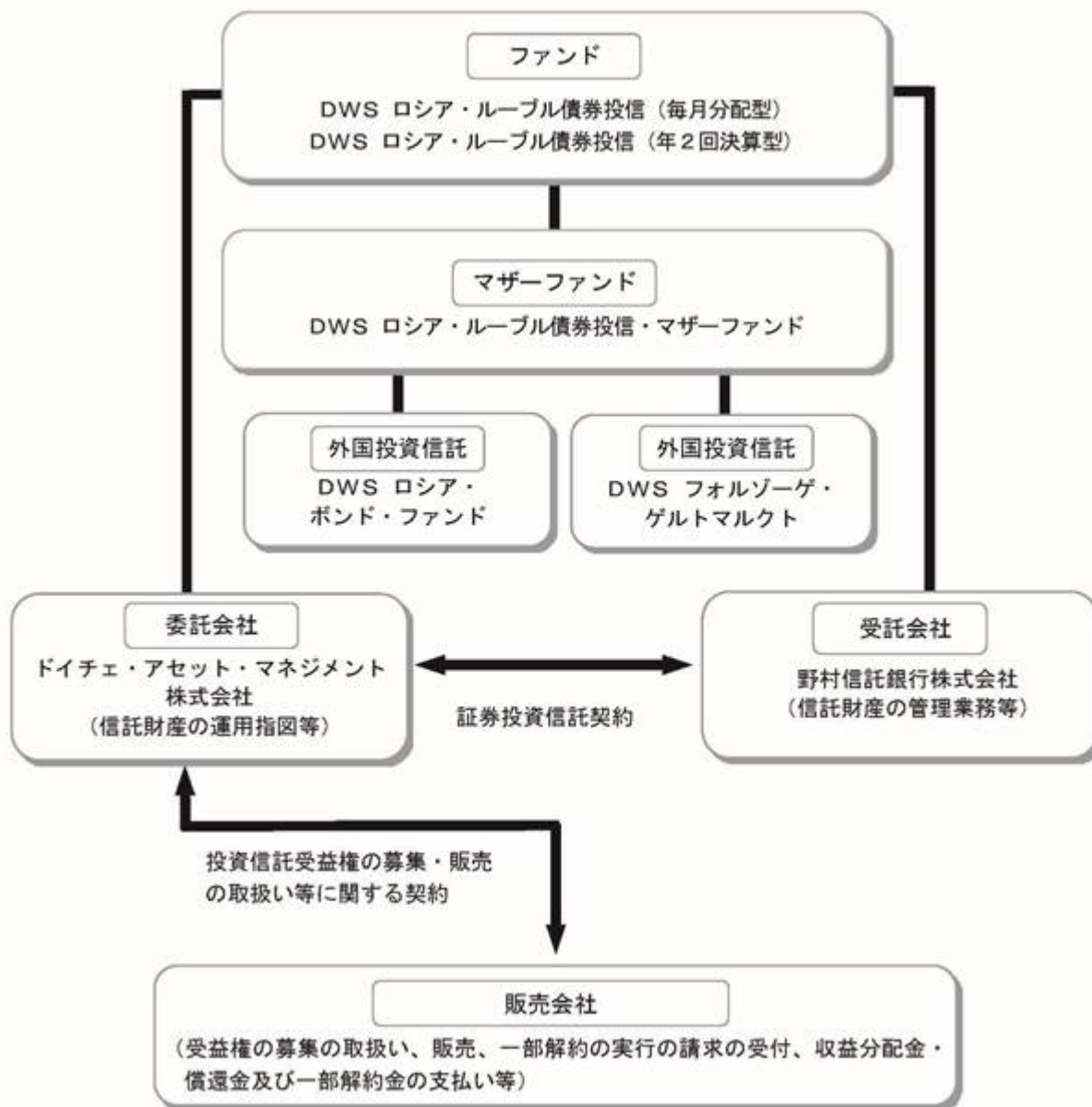
(2) 【ファンドの沿革】

2008年5月29日 信託契約締結、ファンドの設定、運用開始

2017年1月21日 信託期間を2028年4月25日までに変更（当初は2018年4月25日まで）

(3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



委託会社及びファンドの関係法人

委託会社及びファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割は次の通りです。

- a. ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社（「委託会社」）
当ファンドの委託会社として、信託財産の運用指図、受託会社との信託契約の締結、目論見書・運用報告書の作成等を行います。
- b. 野村信託銀行株式会社（「受託会社」）
委託会社との間で「証券投資信託契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理、基準価額の計算、外国証券を保管・管理する外国の金融機関への指図等を行います。
- c. 「販売会社」
委託会社との間で「投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金・償還金及び一部解約金の支払い等を行います。

委託会社の概況

- a. 資本金の額（2025年11月末現在）
3,078百万円
- b. 沿革

- 1985年 モルガン グレンフェル インターナショナル アセット マネジメント(株)設立
- 1987年 投資顧問業登録、投資一任業務認可取得
- 1990年 ドイツ銀投資顧問(株)と合併し、ディービー モルガン グレンフェル アセット マネジメント(株)に社名を変更
- 1995年 ディービー モルガン グレンフェル投信投資顧問(株)に社名を変更
証券投資信託委託会社免許取得
- 1996年 ドイチェ・モルガン・グレンフェル投信投資顧問(株)に社名を変更
- 1999年 バンカース・トラスト投信投資顧問(株)と合併し、ドイチェ・アセット・マネジメント(株)に社名を変更
- 2002年 チューリッヒ・スカダー投資顧問(株)と合併
- 2005年 ドイチェ・アセット・マネジメント(株)とドイチェ信託銀行(株)の資産運用サービス業務を統合
資産運用部門はドイチェ・アセット・マネジメント(株)に一本化

c. 大株主の状況(2025年11月末現在)

名称: DWS グループ GmbH & Co. KGaA

住所: ドイツ連邦共和国60329 ヘッセン フランクフルト・アム・マイン マインツァー・ラント通り11-17

所有株式: 61,560株

所有比率: 100%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

基本方針

当ファンドは、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

運用方法

a. 投資対象

DWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)の受益証券を主要投資対象とします。

b. 投資態度

- 1) 主として、マザーファンド受益証券への投資を通じて、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
- 2) マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、ロシアの国債及び準国債(国が50%以上の株式を保有している企業が発行する債券をいいます。以下同じ。)等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行います。
- 3) 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- 4) 市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

<マザーファンドの投資方針>

基本方針

マザーファンドは、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

運用方法

a. 投資対象

投資信託証券を主要投資対象とします。

b. 投資態度

- 1) 主として、ロシアの国債及び準国債等を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行い、インカム・ゲインの獲得と信託財産の中長期的な成長を目指します。

- 2) 投資信託証券への投資にあたっては、本書作成時点において、以下の投資信託証券(以下「指定投資信託証券」といいます。)に投資を行うことを基本とします。なお、指定投資信託証券は見直されることがあり、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券が指定から外れる場合や、新たな投資信託証券が指定投資信託証券として指定される場合があります。

ルクセンブルグ籍外国投資信託 DWS ロシア・ボンド・ファンド

ルクセンブルグ籍外国投資信託 DWS フォルゾーゲ・ゲルトマルクト

- 3) 各投資信託証券への投資割合は、市況動向及び資金動向等を勘案して決定するものとしますが、原則としてロシアの国債及び準国債等を主要投資対象とする投資信託証券の組入比率は高位に保つことを基本とします。

- 4) 外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

- 5) 市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

c. 銘柄選定の方針

指定投資信託証券については、その具体的な投資対象を重視して選定を行います。また、余裕資金の円滑な運用を目的とした選定も行います。

(2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

当ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(投資信託及び投資法人に関する法律(以下「投信法」といいます。))第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)

(イ)有価証券

(ロ)金銭債権

(ハ)約束手形

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

(イ)為替手形

投資の対象とする有価証券等

- a. 委託会社は、信託金を、主として、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社を委託会社とし、野村信託銀行株式会社を受託会社として締結されたDWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンドの受益証券のほか、次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパー及び短期社債等

2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記1.の証券の性質を有するもの

3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券及び社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。)

4. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)

なお、上記3.の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は買現先取引及び債券貸借取引に限り行うことができるものとします。

- b. 委託会社は、信託金を、上記a.に掲げる有価証券のほか、当ファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下同じ。)により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

<マザーファンドの投資対象>

投資の対象とする資産の種類

マザーファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1．次に掲げる特定資産

- (イ) 有価証券
- (ロ) 金銭債権
- (ハ) 約束手形

2．次に掲げる特定資産以外の資産

- (イ) 為替手形

運用の指図範囲等

a．委託会社は、信託金を、主として指定投資信託証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図するものとします。

- 1．コマーシャル・ペーパー及び短期社債等
- 2．外国または外国の者の発行する証券または証書で、上記1．の証券の性質を有するもの
- 3．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券及び社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券を除きます。）
- 4．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）

なお、上記3．の証券を以下「公社債」といい、公社債に係る運用の指図は買現先取引及び債券貸借取引に限り行うことができるものとします。

b．委託会社は、信託金を、上記a．に掲げる有価証券のほか、マザーファンドの設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

- 1．預金
- 2．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- 3．コール・ローン
- 4．手形割引市場において売買される手形

< マザーファンドが投資する指定投資信託証券の概要 >

ファンド名	DWS ロシア・ボンド・ファンド	DWS フォルゾーゲ・ゲルトマルクト
形態	ルクセンブルグ籍外国投資信託	ルクセンブルグ籍外国投資信託
表示通貨	ロシア・ルーブル (取引決済はユーロで行われます。)	ユーロ
運用の基本方針	主にロシアの国債及び準国債等に投資を行い、インカム・ゲインの獲得とファンド資産の中長期的な成長を目指します。	1 ヶ月EURIBORをベンチマークとし、安定的な収益の確保を目指します。
主な投資対象	ロシアの国債及び準国債等	ユーロ建の短期金融商品等
主な投資制限	・株式への投資は行いません。 ・ルーブル建以外の資産へ投資を行う場合は、当該ルーブル以外の通貨売り、ルーブル買いの為替取引を行うことを原則とします。	・1 発行体への投資の合計額はファンド資産の10%を超えません。
投資運用会社	DWS インベストメント GmbH	DWS インベストメント GmbH
管理会社	DWS インベストメント・エス・エー	DWS インベストメント・エス・エー

(注1) DWS ロシア・ボンド・ファンドにおいて、正味で大口の資金流入または資金流出が発生した場合、予想される取引コスト等を考慮して、当該ファンドの価格が調整されることがあります。

(注2) 市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

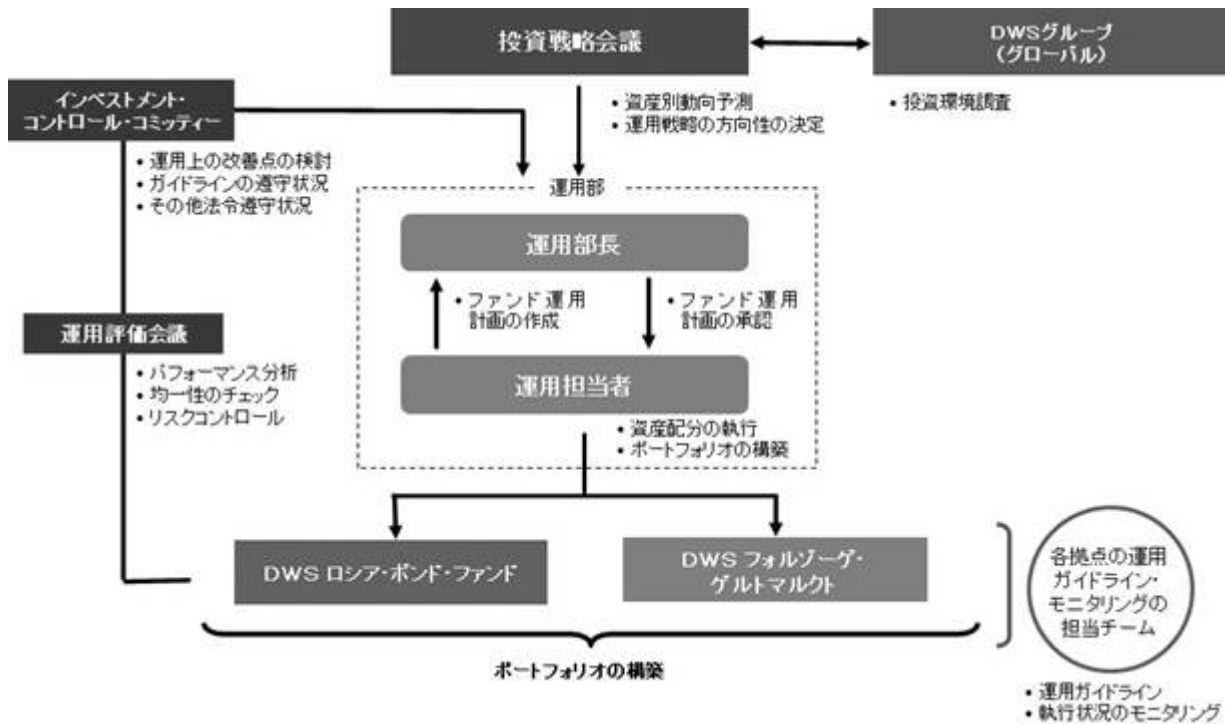
(注3) 指定投資信託証券は見直されることがあります。

（注4）上記は本書作成時点のものであり、今後変更となることがあります。

(3) 【運用体制】

当ファンドの運用体制は以下の通りです。

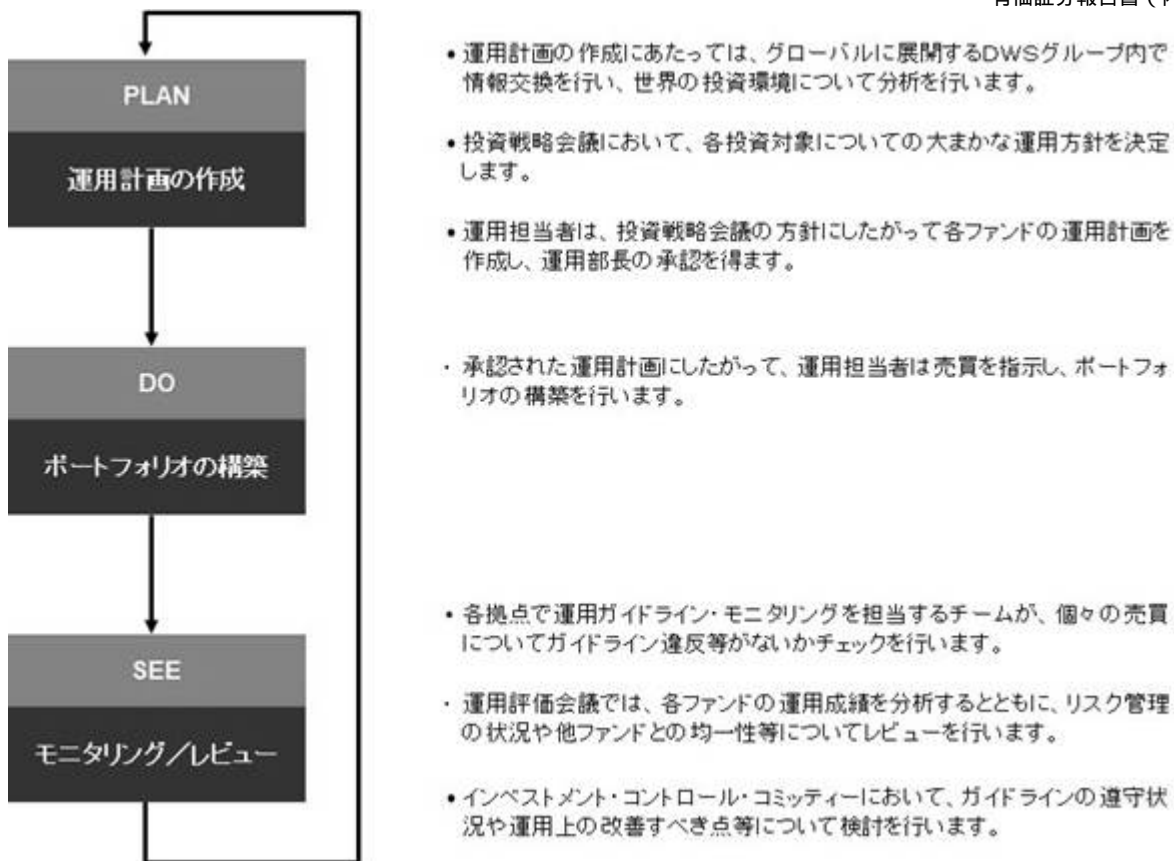
< 運用体制 >



運用計画の作成、ポートフォリオの運用指図、法令等の遵守状況確認、運用評価及びリスク管理等当ファンドの一連の運用業務は、委託会社の運用部が行います。運用部における主な意思決定機関としては、投資戦略会議、運用評価会議、インベストメント・コントロール・コミッティーの3つがあります。これらはいずれも運用部長が主催し、各運用担当者及び必要に応じて関係部署の代表者が参加して行われます。

投資戦略会議では、投資環境予測や運用戦略の方向性の決定等、運用計画の作成に必要な基本的な事項を審議・決定します。運用評価会議では、超過収益率の要因分析や投資行動、均一性等を含めて審議します。インベストメント・コントロール・コミッティーでは、顧客勘定における運用リスクに係る諸問題等を把握し、必要な意思決定を行います。これらの運用体制については、社内規程及び運用部内規程により定められています。

< 運用の流れ >



< 内部管理及びファンドに係る意思決定を監督する組織 >

インベストメント・コントロール・コミッティーは、その活動内容等をエグゼクティブ・コミッティーに報告します。エグゼクティブ・コミッティーは代表取締役が議長を務め、委託会社の業務運営、リスク管理及び内部統制等に係る諸問題を把握し、取締役会決議事項については取締役会に対する諮問機関であるとともに、それ以外の事項については代表取締役が行う意思決定を補佐する機関としての役割を担います。さらに、アセットマネジメントコンプライアンス部は、運用部から独立した立場でガイドライン遵守状況及び利益相反取引等の検証を行います。また、独立したモニタリング活動として、すべての部門から独立した監査部が内部統制の有効性及び業務プロセスの効率性を検証し、経営陣に対して問題点の指摘、改善点の提案を行います。上記各組織については、その内部管理機能の有効性の観点から十分な人員を確保しております。

< 委託会社等によるファンドの関係法人に対する管理体制 >

当ファンドの受託会社に対する管理については、証券投資信託契約に基づく受託会社としての業務の適切な遂行及び全体的なサービスレベルを委託会社のアセットマネジメント業務部においてモニターしております。

(注) 運用体制は、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

毎決算時（「毎月分配型」は、原則として毎月25日。「年2回決算型」は、原則として毎年4月25日及び10月25日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準及び市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

(注) 将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。

(参考情報)

【収益分配金に関する留意事項】

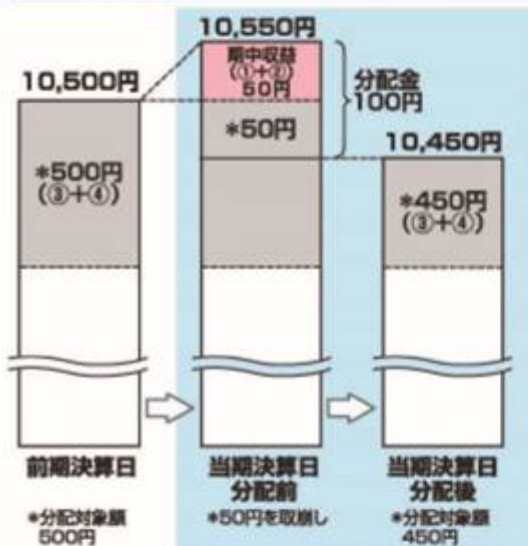
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



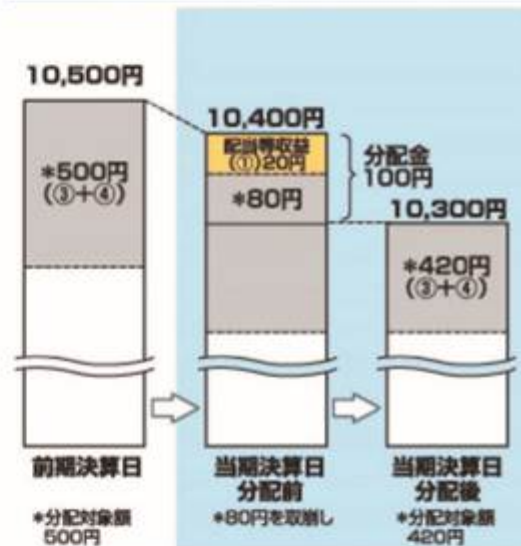
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

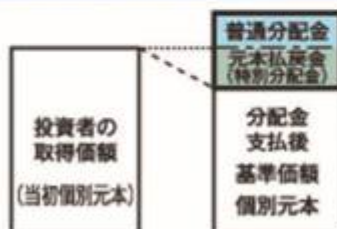


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益及び②経費控除後の評価益を含む売買益並びに③分配準備積立金及び④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

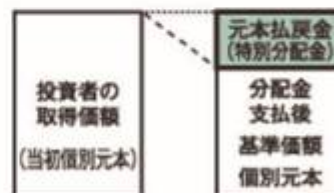
- 投資者のファンドの取得価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド取得後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの取得価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(5) 【投資制限】

< 信託約款で定める投資制限 >

株式への投資制限

株式への直接投資は行いません。

投資信託証券への投資制限

投資信託証券への実質投資割合 には制限を設けません。

「実質投資割合」とは、各ファンドに属する当該資産の時価総額とマザーファンドに属する当該資産のうち各ファンドに属するとみなした額（各ファンドに属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額の信託財産の純資産総額に占める割合をいいます。以下同じ。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

信用リスク集中回避のための投資制限

- a．同一銘柄の投資信託証券への投資は、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、信託財産の純資産総額の35%以下とします。
- b．一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対するエクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として35%以下とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

公社債の借入れ

- a．委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b．上記 a．の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c．信託財産の一部解約等の事由により、上記 b．の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- d．上記 a．の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約取引の指図

- a．委託会社は、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。
- b．上記 a．において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

資金の借入れ

- a．委託会社は、信託財産の効率的な運用並びに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b．一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金及び有価証券等の償還金の合計額を限度とします。
- c．収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d．借入金の利息は信託財産中より支弁します。

< マザーファンドの信託約款で定める投資制限 >

株式への投資制限

株式への直接投資は行いません。

投資信託証券への投資制限

投資信託証券への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資制限

外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

信用リスク集中回避のための投資制限

- a . 同一銘柄の投資信託証券への投資は、当該投資信託証券が一般社団法人投資信託協会規則に定めるエクスポージャーがルックスルーできる場合に該当しないときは、信託財産の純資産総額の35%以下とします。
- b . 一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対するエクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として35%以下とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

公社債の借入れ

- a . 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- b . 上記 a . の指図は、当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- c . 信託財産の一部解約等の事由により、上記 b . の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- d . 上記 a . の借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約取引の指図

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約取引を指図することができます。

< 法令で定める投資制限 >

同一法人の発行する株式への投資制限（投信法第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式について、次の a . の数が b . の数を超えることとなる場合には、当該株式を信託財産で取得することを受託会社に指図しないものとします。

- a . 委託会社が運用の指図を行うすべてのファンドで保有する当該株式に係る議決権の総数
- b . 当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数

デリバティブ取引に係る投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引及び選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。

信用リスク集中回避のための投資制限（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

委託会社は、信託財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいう。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

(1)当ファンドの主なリスク及び留意点

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて投資信託証券に投資することにより、債券等の値動きのある証券（外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金が保証されているものではありません。当ファンドに生じた利益及び損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドの基準価額は、主に以下のリスクにより変動し、損失を生じるおそれがあります。

なお、当ファンドは預貯金と異なります。

金利変動リスク

債券価格は、通常、金利が上昇した場合には下落傾向となり、金利が低下した場合には上昇傾向となります。したがって、金利が上昇した場合には、保有している債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。特に、新興国の債券等の価格は、こうした金利変動や投資環境の変化等の影響を大きく受け、短期間に大幅に変動する可能性があります。

信用リスク

債券及びコマーシャル・ペーパー等短期金融商品の価格は、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化を含む信用状況等の悪化により、下落することがあります。特に、デフォルト（債務不履行）が生じた場合または予想される場合には、当該商品の価格は大きく下落（価格がゼロとなることもあります。）し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。特に、新興国の債券等の格付の低い債券は、格付の高い債券と比較して、一般的に信用度が低く、発行者の信用状況等の変化により短期間に価格が大きく変動する可能性やデフォルトの可能性が高いと考えられます。

為替変動リスク

当ファンドは主に外国の債券に投資する外貨建投資信託証券に投資しますので、ファンドの基準価額は、当該投資信託証券及び当該投資信託証券が組入れている外貨建資産の通貨と日本円との間の為替レートの変動の影響を受けます。外貨建資産の価格は、通常、為替レートが円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。したがって、為替レートが円高になれば外貨建資産の価格が下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

カントリーリスク

投資対象国の政治、経済情勢の変化等により、市場が混乱した場合や、組入資産の取引に関わる法制度の変更が行われた場合等には、有価証券等の価格が変動したり、投資方針に沿った運用が困難な場合があります。これらにより、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。特に、新興国市場には、一般に先進諸国の市場に比べ、規模、取引量が小さく、法制度（市場の法制度、政府の規制、税制、外国への送金規制等）やインフラストラクチャーが未発達であり、低い流動性、高い価格変動性、並びに決済の低い効率性が考えられます。また、発行者情報の開示等の基準が先進諸国と異なることから、投資判断に際して正確な情報を十分確保できないことがあります。このように、新興国への投資については、一般的に先進諸国への投資に比べカントリーリスクが高くなります。

流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、投資対象とする投資信託証券において機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

その他の留意点

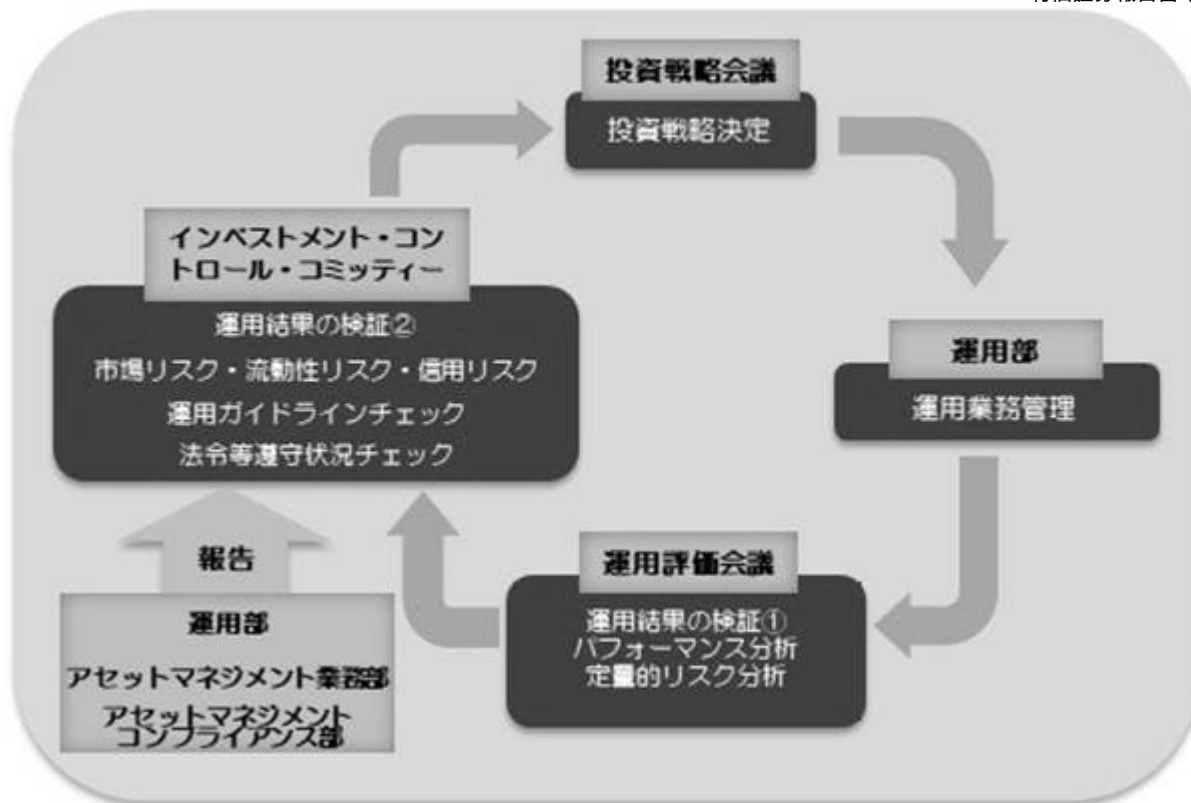
- ・当ファンドがマザーファンドを通じて投資する投資信託証券においては、同一発行体の発行する銘柄に10%を超えて投資する可能性が高く、特定の銘柄への投資が集中することがあります。当該銘柄の発行体に経営・財務破綻や経営・財務状況の悪化が生じた場合または予想される場合等には、大きな損失が発生しファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
- ・一部の新興国の通貨（特に為替規制を行っている通貨）については、ノン・デリバブル・フォワード（NDF）という取引手法を用いて為替取引を行う場合があります。NDFは為替予約取引の一種ですが、当該通貨を用いた受渡しは行われず、米ドル等の主要通貨によって差金決済されます。当該新興国の為替市場における通貨

の値動きは、内外の為替取引の自由化を実施していないことから、価格間の裁定が働きにくい状況となっており、NDFにおける通貨の値動きと実際の為替市場の値動きは一致せず、大きく乖離する場合があります。この結果、基準価額の値動きが、実際の為替市場の値動きから想定されるものと大きく乖離する場合があります。なお、当ファンドにおいては、米ドル建/ユーロ建等のロシア債券に投資する場合には一部NDFによる為替取引を行う場合があります。

- 各ファンドの資産規模に対して大量の追加設定(ファンドへの資金流入)または大量の一部解約(ファンドからの資金流出)があった場合、基準価額の変動が市場動向と大きく異なる可能性があります。また、大量の追加設定があった場合、各ファンドがマザーファンドを通じて投資する投資信託証券においても原則として迅速に有価証券の組入れを行います。買付予定銘柄によっては流動性等の観点から買付終了までに時間がかかることがあります。同様に大量の解約があった場合にも解約資金を手当てするため保有証券を大量に売却しなければならないことがあります。その結果、基準価額の変動が市場動向と大きく異なる可能性があります。また、マザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドの追加設定・一部解約等により、当該マザーファンドにおいて売買が生じた場合等には、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約代金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、解約申込みの受け付けが中止となる可能性、解約代金の支払いが遅延する可能性等があります。
- 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情(投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等が発生した場合、システムの誤作動等により決済または基準価額の計算が不能となった場合、計算された基準価額の正確性に合理的な疑いが生じた場合等)を含みます。)があると委託会社が判断した場合は、取得申込み・解約請求の受付を中止すること及び既に受け付けた取得申込み・解約請求の受付を取消することができます。
- 当ファンドの資産規模によっては、投資方針に沿った運用が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。
- 各ファンドは、受益権の口数が50億口を下回るようになった場合、DWS ロシア・ボンド・ファンドが償還することとなる場合等に必要な手続き等を経て繰上償還されることがあります。
- 資金動向、市況動向その他の要因により、投資方針に沿った運用ができない場合があります。
- 当ファンドは、以下の日は取得申込み及び解約請求の受付を行いません。
フランクフルトの銀行休業日またはルクセンブルグの銀行休業日
- 法令・税制・会計制度等は今後変更される可能性もあります。
- 投資対象国の政府当局による、海外からの投資規制や課徴的な税制、海外からの送金規制等の様々な規制の導入や政策変更等により、投資対象国の証券への投資が悪影響を被る可能性があります。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

(2)投資リスクに対する管理体制

委託会社のリスク管理体制は以下の通りです。



委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミッティーで、ここでは運用部、アセットマネジメント業務部、アセットマネジメントコンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況等様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミッティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミッティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用業務を行っております。

また、委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

（注）投資リスクに対する管理体制は、今後変更となる場合があります。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.85%（税抜3.5%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細については、販売会社にお問合せ下さい。

収益分配金を再投資する場合の申込手数料は無手数料とします。

（注）申込手数料は、販売会社による商品及び関連する投資環境の説明や情報提供等並びに購入受付事務等の対価です。

(2)【換金（解約）手数料】

換金（解約）に係る手数料はありません。

ただし、換金（解約）時に、一部解約の実行の請求を受付けた日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に0.3%を乗じて得た額）が差し引かれます。

「信託財産留保額」とは、引続き受益権を保有する受益者と解約者との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、信託満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

(3)【信託報酬等】

各ファンドの信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、各ファンドの信託財産の純資産総額に年率1.221%（税抜1.11%）以内を乗じて得た額とし、その配分及び役務の内容は以下の通りです。

	配分（年率、税抜）	役務の内容
委託会社	0.38%以内	委託した資金の運用等の対価
販売会社	0.70%	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での当ファンドの管理等の対価
受託会社	0.03%	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価

（注）委託会社及び受託会社の報酬は、ファンドから支払われます。信託報酬の販売会社への配分は、販売会社が行うファンドの募集の取扱い等に関する業務に対する代行手数料であり、ファンドから委託会社に支払われた後、委託会社より販売会社に対して支払われます。

なお、この他に指定投資信託証券に関しても、以下の信託報酬相当額がかかります。

指定投資信託証券の名称	信託報酬相当額（年率）
DWS ロシア・ボンド・ファンド	実質0.40%以内（注）
DWS フォルゾーゲ・ゲルトマルクト	0.20%（本書作成日現在）

（注）本書作成日現在、当該指定投資信託証券の信託報酬（運用報酬及び管理報酬等）の一部（年率0.70%以内のうち、年率0.30%）は、マザーファンドに対して払い戻されるため、実質的な信託報酬は年率0.40%以内となります。

したがって、各ファンドの信託報酬に指定投資信託証券の信託報酬相当額を加算した実質的な信託報酬は、本書作成日現在において、各ファンドの純資産総額に対し、年率1.621%以内（税込）となります。なお、この実質的な信託報酬は、あくまでも概算値であり、マザーファンドにおける実際の指定投資信託証券の組入状況等によっては変動することがあります。

上記の信託報酬並びに当該信託報酬に係る消費税及び地方消費税に相当する金額（以下「消費税等相当額」といいます。）は毎日計上され、基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払うものとしします。

(4) 【その他の手数料等】

当ファンド及び組入ファンドにおいて、信託事務の処理等に要する諸費用（ファンドの監査に係る監査法人への報酬、法律・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の作成・印刷等に係る費用等を含みます。以下同じ。）組入資産の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、租税等がかかります。これらは原則として信託財産が負担します。

ただし、これらの費用のうち当ファンドの信託事務の処理等に要する諸費用の信託財産での負担は、その純資産総額に対して年率0.10%を上限とします。

当ファンドの信託事務の処理等に要する諸費用は毎日計上され、基準価額に反映されます。なお、「毎月分配型」においては毎年4月及び10月に到来する計算期末または信託終了のときに、「年2回決算型」においては毎計算期末または信託終了のときに消費税等相当額とともに信託財産中から支払われます。

上記の手数料等は、運用状況等により変動するものであり、当ファンドの信託事務の処理等に要する諸費用を除き事前に料率、上限額等を表示することができません。

(5) 【課税上の取扱い】

日本の居住者（法人を含みます。）である受益者に対する課税については、以下の取扱いとなります。

個別元本方式について

追加型株式投資信託については、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料及び申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合には販売会社毎に、個別元本の算出が行われず。また、同一販売会社であっても複数口座で同一ファンドを取得する場合は当該口座毎に、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。

受益者が元本払戻金(特別分配金)を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については下記「収益分配金について」をご参照下さい。)

収益分配金について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者の元本の一部払戻しに相当する部分)の区別があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、()当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、()当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

課税の取扱いについて

以下の内容は2025年11月末現在の税法に基づくものであり、税法が改正された場合等には内容が変更されることがあります。

a. 個人の受益者に対する課税

収益分配金の取扱い

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、原則として20.315%(所得税15.315%及び地方税5%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行い、総合課税または申告分離課税を選択することもできます。

一部解約金、償還金の取扱い

一部解約時及び償還時の差益については譲渡所得となり、原則として20.315%(所得税15.315%及び地方税5%)の税率による申告分離課税が適用されます。なお、特定口座において「源泉徴収あり」を選択した場合には、20.315%(所得税15.315%及び地方税5%)の税率による源泉徴収が行われます。

収益分配金のうち、所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金(特別分配金)は課税されません。また、配当控除の適用はありません。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA(ニーサ))の適用対象となります。

当ファンドは、NISAの対象ではありません。

b. 法人の受益者に対する課税

収益分配金、一部解約金、償還金の取扱い

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金並びに一部解約時及び償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税のみ)の税率で源泉徴収され、法人の受取額となります。なお、地方税の源泉徴収はありません。

収益分配金のうち、所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金(特別分配金)は課税されません。また、益金不算入制度は適用されません。

(注1) 上記のほか、販売会社によっては受益権を買い取る場合があります。買取請求時の課税の取扱いについて、詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

(注2) 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

(注3) 課税上の取扱いの詳細については、税務専門家または税務署にご確認下さい。

5【運用状況】**(1)【投資状況】**

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

（2025年11月28日現在）

資産の種類	地域別（国名）	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	795,656,632	100.02
コール・ローン・その他の資産（負債控除後）		119,339	0.02
合計（純資産総額）		795,537,293	100.00

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

（2025年11月28日現在）

資産の種類	地域別（国名）	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	日本	471,712,273	100.08
コール・ローン・その他の資産（負債控除後）		361,714	0.08
合計（純資産総額）		471,350,559	100.00

（注）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

（参考）DWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド

（2025年11月28日現在）

資産の種類	地域別（国名）	時価合計（円）	投資比率（％）
投資信託受益証券	ルクセンブルグ	1,241,739,867	97.96
コール・ローン・その他の資産（負債控除後）		25,842,601	2.04
合計（純資産総額）		1,267,582,468	100.00

（注）投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2)【投資資産】**【投資有価証券の主要銘柄】**

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

<評価額(全銘柄)>

（2025年11月28日現在）

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価単価 (円)	簿価金額 (円)	評価単価 (円)	評価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資 信託受 益証券	DWSロシア・ルー ブル債券投信・マ ザーファンド	3,545,706,917	0.2223	788,210,647	0.2244	795,656,632	100.02

<種別別投資比率>

（2025年11月28日現在）

種類	国内/外国	投資比率（％）
親投資信託受益証券	国内	100.02
合計		100.02

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

<評価額(全銘柄)>

(2025年11月28日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価単価 (円)	簿価金額 (円)	評価単価 (円)	評価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資 信託受 益証券	DWSロシア・ルー ブル債券投信・マ ザーファンド	2,102,104,606	0.2136	449,009,543	0.2244	471,712,273	100.08

<種類別投資比率>

(2025年11月28日現在)

種類	国内/外国	投資比率(%)
親投資信託受益証券	国内	100.08
合計		100.08

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄及び種類別の評価金額の比率をいいます。

(参考) DWSロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド

<評価額(全銘柄)>

(2025年11月28日現在)

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	簿価単価 (円)	簿価金額 (円)	評価単価 (円)	評価金額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルク セン ブル グ	投資信 託受益 証券	DWSロシア・ポ ンド・ファンド	1,753,615.7568	701.91	1,230,887,947	708.07	1,241,691,738	97.96
2	ルク セン ブル グ	投資信 託受益 証券	DWS フォルゾー グ・ゲルトマルクト	1.8582	25,588.20	47,548	25,900.87	48,129	0.00

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

<種類別投資比率>

(2025年11月28日現在)

種類	国内/外国	投資比率(%)
投資信託受益証券	外国	97.96
合計		97.96

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類別の評価金額の比率をいいます。

【投資不動産物件】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

該当事項はありません。

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

該当事項はありません。

(参考) DWSロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

該当事項はありません。

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

該当事項はありません。

（参考）DWSロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

計算期間末または各月末	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第16特定期間末（2016年4月25日）	7,442	7,500	0.4525	0.4560
第17特定期間末（2016年10月25日）	6,932	6,985	0.4611	0.4646
第18特定期間末（2017年4月25日）	53,045	53,388	0.5420	0.5455
第19特定期間末（2017年10月25日）	48,697	49,009	0.5456	0.5491
第20特定期間末（2018年4月25日）	29,947	30,165	0.4806	0.4841
第21特定期間末（2018年10月25日）	22,275	22,452	0.4418	0.4453
第22特定期間末（2019年4月25日）	18,879	19,023	0.4586	0.4621
第23特定期間末（2019年10月25日）	15,507	15,623	0.4684	0.4719
第24特定期間末（2020年4月27日）	10,334	10,427	0.3873	0.3908
第25特定期間末（2020年10月26日）	8,253	8,333	0.3643	0.3678
第26特定期間末（2021年4月26日）	6,910	6,978	0.3586	0.3621
第27特定期間末（2021年10月25日）	6,048	6,103	0.3811	0.3846
第28特定期間末（2022年4月25日）	3,609	3,609	0.2592	0.2592
第29特定期間末（2022年10月25日）	743	743	0.0534	0.0534
第30特定期間末（2023年4月25日）	216	216	0.0156	0.0156
第31特定期間末（2023年10月25日）	188	188	0.0136	0.0136
第32特定期間末（2024年4月25日）	752	752	0.0541	0.0541
第33特定期間末（2024年10月25日）	704	704	0.0506	0.0506
第34特定期間末（2025年4月25日）	681	681	0.0490	0.0490
第35特定期間末（2025年10月27日）	757	757	0.0544	0.0544
2024年11月末日	625		0.0449	
12月末日	673		0.0483	
2025年1月末日	698		0.0501	
2月末日	758		0.0544	
3月末日	778		0.0559	
4月末日	689		0.0495	
5月末日	738		0.0530	
6月末日	726		0.0522	
7月末日	726		0.0521	
8月末日	717		0.0515	
9月末日	701		0.0504	
10月末日	765		0.0549	
11月末日	795		0.0571	

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

計算期間末または各月末	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第16計算期間末（2016年4月25日）	6,225	6,225	0.8146	0.8146
第17計算期間末（2016年10月25日）	5,831	5,831	0.8728	0.8728
第18計算期間末（2017年4月25日）	28,487	28,487	1.0690	1.0690
第19計算期間末（2017年10月25日）	23,677	23,677	1.1201	1.1201
第20計算期間末（2018年4月25日）	13,669	13,669	1.0267	1.0267
第21計算期間末（2018年10月25日）	10,724	10,724	0.9881	0.9881
第22計算期間末（2019年4月25日）	9,043	9,043	1.0765	1.0765
第23計算期間末（2019年10月25日）	7,026	7,026	1.1522	1.1522
第24計算期間末（2020年4月27日）	5,504	5,504	0.9998	0.9998
第25計算期間末（2020年10月26日）	4,384	4,384	0.9928	0.9928
第26計算期間末（2021年4月26日）	3,594	3,594	1.0367	1.0367
第27計算期間末（2021年10月25日）	3,483	3,483	1.1659	1.1659
第28計算期間末（2022年4月25日）	2,139	2,139	0.8194	0.8194
第29計算期間末（2022年10月25日）	440	440	0.1687	0.1687
第30計算期間末（2023年4月25日）	128	128	0.0492	0.0492
第31計算期間末（2023年10月25日）	111	111	0.0429	0.0429
第32計算期間末（2024年4月25日）	445	445	0.1708	0.1708
第33計算期間末（2024年10月25日）	417	417	0.1598	0.1598
第34計算期間末（2025年4月25日）	403	403	0.1547	0.1547
第35計算期間末（2025年10月27日）	449	449	0.1720	0.1720
2024年11月末日	370		0.1420	
12月末日	398		0.1527	
2025年1月末日	413		0.1584	
2月末日	449		0.1720	
3月末日	461		0.1768	
4月末日	408		0.1564	
5月末日	437		0.1676	
6月末日	430		0.1649	
7月末日	430		0.1648	
8月末日	425		0.1629	
9月末日	415		0.1592	
10月末日	453		0.1736	
11月末日	471		0.1805	

（注）純資産総額は、百万円未満を切捨てしております。

【分配の推移】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

		1口当たりの分配金（円）
第16特定期間	2015年10月27日～2016年4月25日	0.0210
第17特定期間	2016年4月26日～2016年10月25日	0.0210
第18特定期間	2016年10月26日～2017年4月25日	0.0210
第19特定期間	2017年4月26日～2017年10月25日	0.0210
第20特定期間	2017年10月26日～2018年4月25日	0.0210
第21特定期間	2018年4月26日～2018年10月25日	0.0210

第22特定期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	0.0210
第23特定期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	0.0210
第24特定期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	0.0210
第25特定期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	0.0210
第26特定期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	0.0210
第27特定期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	0.0210
第28特定期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	0.0140
第29特定期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	0.0000
第30特定期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	0.0000
第31特定期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	0.0000
第32特定期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	0.0000
第33特定期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	0.0000
第34特定期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	0.0000
第35特定期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	0.0000

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

		1口当たりの分配金（円）
第16計算期間	2015年10月27日～2016年 4月25日	0.0000
第17計算期間	2016年 4月26日～2016年10月25日	0.0000
第18計算期間	2016年10月26日～2017年 4月25日	0.0000
第19計算期間	2017年 4月26日～2017年10月25日	0.0000
第20計算期間	2017年10月26日～2018年 4月25日	0.0000
第21計算期間	2018年 4月26日～2018年10月25日	0.0000
第22計算期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	0.0000
第23計算期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	0.0000
第24計算期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	0.0000
第25計算期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	0.0000
第26計算期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	0.0000
第27計算期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	0.0000
第28計算期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	0.0000
第29計算期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	0.0000
第30計算期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	0.0000
第31計算期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	0.0000
第32計算期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	0.0000
第33計算期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	0.0000
第34計算期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	0.0000
第35計算期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	0.0000

【収益率の推移】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

		収益率（％）
第16特定期間	2015年10月27日～2016年 4月25日	6.7
第17特定期間	2016年 4月26日～2016年10月25日	6.5
第18特定期間	2016年10月26日～2017年 4月25日	22.1
第19特定期間	2017年 4月26日～2017年10月25日	4.5
第20特定期間	2017年10月26日～2018年 4月25日	8.1
第21特定期間	2018年 4月26日～2018年10月25日	3.7
第22特定期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	8.6

第23特定期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	6.7
第24特定期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	12.8
第25特定期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	0.5
第26特定期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	4.2
第27特定期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	12.1
第28特定期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	28.3
第29特定期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	79.4
第30特定期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	70.8
第31特定期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	12.8
第32特定期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	297.8
第33特定期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	6.5
第34特定期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	3.2
第35特定期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	11.0

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

		収益率（％）
第16計算期間	2015年10月27日～2016年 4月25日	6.1
第17計算期間	2016年 4月26日～2016年10月25日	7.1
第18計算期間	2016年10月26日～2017年 4月25日	22.5
第19計算期間	2017年 4月26日～2017年10月25日	4.8
第20計算期間	2017年10月26日～2018年 4月25日	8.3
第21計算期間	2018年 4月26日～2018年10月25日	3.8
第22計算期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	8.9
第23計算期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	7.0
第24計算期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	13.2
第25計算期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	0.7
第26計算期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	4.4
第27計算期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	12.5
第28計算期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	29.7
第29計算期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	79.4
第30計算期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	70.8
第31計算期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	12.8
第32計算期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	298.1
第33計算期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	6.4
第34計算期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	3.2
第35計算期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	11.2

（注）収益率は、小数第2位を四捨五入しております。

(4)【設定及び解約の実績】

下記期間中の設定及び解約の実績は次の通りです。

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

		設定口数（口）	解約口数（口）
第16特定期間	2015年10月27日～2016年 4月25日	1,328,007,893	3,800,639,991
第17特定期間	2016年 4月26日～2016年10月25日	1,881,268,264	3,293,086,410
第18特定期間	2016年10月26日～2017年 4月25日	90,687,601,506	7,846,053,715
第19特定期間	2017年 4月26日～2017年10月25日	17,678,661,164	26,305,769,499
第20特定期間	2017年10月26日～2018年 4月25日	4,658,896,618	31,589,649,848

第21特定期間	2018年 4月26日～2018年10月25日	2,814,812,164	14,716,753,335
第22特定期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	1,144,398,606	10,395,778,165
第23特定期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	917,617,457	8,972,984,766
第24特定期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	2,538,315,282	8,962,881,123
第25特定期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	622,334,615	4,650,287,510
第26特定期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	573,601,554	3,957,769,778
第27特定期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	294,033,554	3,697,977,361
第28特定期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	829,375,428	2,770,939,441
第29特定期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	0	0
第30特定期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	0	0
第31特定期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	0	0
第32特定期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	0	0
第33特定期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	0	0
第34特定期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	0	0
第35特定期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	0	0

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

		設定口数（口）	解約口数（口）
第16計算期間	2015年10月27日～2016年 4月25日	1,476,798,154	1,760,801,999
第17計算期間	2016年 4月26日～2016年10月25日	809,117,996	1,769,473,239
第18計算期間	2016年10月26日～2017年 4月25日	22,808,691,982	2,841,345,677
第19計算期間	2017年 4月26日～2017年10月25日	2,663,220,404	8,172,543,871
第20計算期間	2017年10月26日～2018年 4月25日	1,455,644,001	9,281,092,471
第21計算期間	2018年 4月26日～2018年10月25日	328,683,784	2,789,888,743
第22計算期間	2018年10月26日～2019年 4月25日	120,694,108	2,572,738,319
第23計算期間	2019年 4月26日～2019年10月25日	287,677,250	2,589,919,240
第24計算期間	2019年10月26日～2020年 4月27日	1,160,390,231	1,753,267,282
第25計算期間	2020年 4月28日～2020年10月26日	11,634,793	1,100,971,564
第26計算期間	2020年10月27日～2021年 4月26日	101,629,349	1,050,478,636
第27計算期間	2021年 4月27日～2021年10月25日	7,360,335	487,211,190
第28計算期間	2021年10月26日～2022年 4月25日	21,264,892	397,944,720
第29計算期間	2022年 4月26日～2022年10月25日	0	0
第30計算期間	2022年10月26日～2023年 4月25日	0	0
第31計算期間	2023年 4月26日～2023年10月25日	0	0
第32計算期間	2023年10月26日～2024年 4月25日	0	0
第33計算期間	2024年 4月26日～2024年10月25日	0	0
第34計算期間	2024年10月26日～2025年 4月25日	0	0
第35計算期間	2025年 4月26日～2025年10月27日	0	0

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

取得申込みの受付は、原則として販売会社の営業日（ただし、フランクフルトの銀行休業日またはルクセンブルグの銀行休業日に該当する日を除きます。）の午後3時30分¹までに取得申込みが行われ、かつ、当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。なお、当該受付時間を過ぎた場合は、翌営業日の受付分として取扱います。

¹ 販売会社によって異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

当ファンドは収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が原則として税引き後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」の2つのコースがあります。当ファンドの取得申込者は、取得申込みをする際に、「一般コース」か「自動けいぞく投資コース」か、どちらかのコースを申し出るものとします。なお、収益分配金の受取方法は途中で変更することはできません。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込者は、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約²を締結します。

² 販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を用いることがあり、この場合、該当する別の名称に読み替えるものとします。なお、「定時定額購入サービス」等の取扱いの有無については、申込みの販売会社にお問合せ下さい。

当ファンドの取得申込者は、販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

申込単位は、販売会社が定める単位とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は1口単位とします。申込単位の詳細については、販売会社にお問合せ下さい。

申込価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。ただし、収益分配金を再投資する場合は、各計算期間終了日（決算日）の基準価額とします。基準価額については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せ下さい。

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に3.85%（税抜3.5%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細については、販売会社にお問合せ下さい。

収益分配金を再投資する場合の申込手数料は無手数料とします。

申込代金については、原則として販売会社が定める日までに申込みの販売会社に支払うものとします。詳細については、販売会社にお問合せ下さい。

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込みの受付の取消し等

- a. 信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の取得申込みの受付を制限または停止することができます。
- b. 委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等が発生した場合、システムの誤作動等により決済または基準価額の計算が不能となった場合、計算された基準価額の正確性に合理的な疑いが生じた場合等を含みます。）があると委託会社が判断した場合は、受益権の取得申込みの受付を中止すること及び既に受付けた取得申込みの受付を取消すことができます。

委託会社の照会先は以下の通りです。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

・ホームページアドレス <https://funds.dws.com/ja-jp/>

・電話番号 03-6730-1308（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

2【換金（解約）手続等】

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。

一部解約の実行の請求の受付は、原則として販売会社の営業日（ただし、フランクフルトの銀行休業日またはルクセンブルグの銀行休業日に該当する日を除きます。）の午後3時30分までに一部解約の実行の請求が行われ、かつ、当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。なお、当該受付時間を過ぎた場合は、翌営業日の受付分として取扱います。

販売会社によって異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

当ファンドの一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

解約単位は、販売会社が定める単位とします。解約単位の詳細については、販売会社にお問合せ下さい。

解約価額は、一部解約の実行の請求を受付けた日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に0.3%を乗じて得た額）を差し引いた額とします。

解約価額については、販売会社または委託会社の後記照会先にお問合せ下さい。

「信託財産留保額」とは、引続き受益権を保有する受益者と解約者との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、信託満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

お手取額は、解約価額から解約に係る所定の税金を差し引いた額となります。詳しくは前記「第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」をご参照下さい。

解約代金は、原則として一部解約の実行の請求を受付けた日から起算して8営業日目から販売会社の本・支店、営業所等にて支払われます。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他合理的な事情（投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等が発生した場合、システムの誤作動等により決済または基準価額の計算が不能となった場合、計算された基準価額の正確性に合理的な疑いが生じた場合等を含みます。）があると委託会社が判断した場合は、一部解約の実行の請求の受付を中止すること及び既に受付けた一部解約の実行の請求の受付を取消すことができます。

その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして上記に準じて計算された価額とします。

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求には制限を設ける場合があります。

（注）上記のほか、販売会社によっては受益権を買い取る場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

委託会社の照会先は以下の通りです。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

・ホームページアドレス <https://funds.dws.com/ja-jp/>

・電話番号 03-6730-1308（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

< 基準価額の計算方法等について >

基準価額とは、信託財産に属する資産（借入有価証券を除きます。）を法令及び一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

受益権1口当たりの純資産総額が基準価額です。なお、便宜上、1万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。基準価額は、原則として委託会社の営業日に日々算出されます。

基準価額については、販売会社または委託会社の下記照会先にお問合せ下さい。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

・ホームページアドレス <https://funds.dws.com/ja-jp/>

・電話番号 03-6730-1308（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

また、原則として日本経済新聞（朝刊）の「オープン基準価格」欄に、前日付の基準価額が掲載されます。

ファンド	略称
毎月分配型	ロシ債毎
年2回決算型	ロシ債2

< 運用資産の評価基準及び評価方法 >

マザーファンド	基準価額で評価します。
投資信託証券	原則として、計算日に知りうる直近の日の基準価額で評価します。
公社債等	法令及び一般社団法人投資信託協会規則にしたがって、時価評価します。
外貨建資産	原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値により評価します。
外国為替予約取引	原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値により評価します。

(2) 【保管】

当ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まりますので、保管に関する該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

信託契約締結日（2008年5月29日）から2028年4月25日までとします。

ただし、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めるとき、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長する場合があります。

(4) 【計算期間】

「毎月分配型」の計算期間は、毎月26日から翌月25日までとすることを原則とします。

「年2回決算型」の計算期間は、毎年4月26日から10月25日まで及び10月26日から翌年4月25日までとすることを原則とします。

上記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は上記「(3) 信託期間」に定める信託期間の終了日とします。

(5) 【その他】

信託の終了

(イ) 委託会社は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより、各ファンドの受益権の口数が50億口を下回ることとなったとき、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- (ロ)委託会社は、この信託がマザーファンド受益証券を通じて投資対象とするDWS ロシア・ボンド・ファンドがその信託を終了することとなる場合は、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。
- (ハ)委託会社は、上記(イ)の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日並びに信託契約の解約の理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (ニ)上記(ハ)の書面決議において、受益者(委託会社及びこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本(ニ)において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (ホ)上記(ハ)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (ヘ)上記(ハ)から(ホ)までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、上記(ロ)の規定に基づいてこの信託契約を解約する場合、または信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記(ハ)から(ホ)までに規定するこの信託契約の解約の手続きを行うことが困難なときには適用しません。

信託約款の変更等

- (イ)委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投信法第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨及びその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本 に定める以外の方法によって変更することができないものとします。
- (ロ)委託会社は、上記(イ)の事項(上記(イ)の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、上記(イ)の併合事項にあつては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日並びに重大な約款の変更等の内容及びその理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- (ハ)上記(ロ)の書面決議において、受益者(委託会社及びこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下本(ハ)において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- (ニ)上記(ロ)の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。
- (ホ)書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- (ヘ)上記(ロ)から(ホ)までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- (ト)上記(イ)から(ヘ)までの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合に係る一または複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

信託契約に関する監督官庁の命令

- (イ)委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- (ロ)委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記 の規定にしたがいます。委託会社の登録取消し等に伴う取扱い

- (イ) 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- (ロ) 上記(イ)の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、上記の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。

運用報告書

委託会社は、法令に基づき、6ヵ月毎（毎年4月及び10月の決算日を基準とします。）及び信託終了時に、期中の運用経過及び組入有価証券の内容等を記載した交付運用報告書を作成し、これを販売会社を通じて当該信託財産に係る知れている受益者に対して交付します。なお、委託会社は、運用報告書（全体版）については電磁的方法により受益者に提供します。ただし、受益者からの運用報告書（全体版）の請求があった場合には、これを交付します。

関係法人との契約の更改等

< 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約 >

当初の契約の有効期間は原則として1年間とします。ただし、期間満了3ヵ月前までに、委託会社及び販売会社いずれからも、何らの意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

委託会社の事業の譲渡及び承継に伴う取扱い

- (イ) 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
- (ロ) 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任及び解任に伴う取扱い

- (イ) 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を申立てることができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、上記の規定にしたがい、新受託会社を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託会社を解任することはできないものとします。
- (ロ) 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託約款に関する疑義の取扱い

信託約款の解釈について疑義が生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めます。

4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

(1) 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社が支払いを決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日までに、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払いを開始します。「自動けいぞく投資コース」をお申込みの場合は、収益分配金は原則として税引き後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとします。

(2) 償還金に対する請求権

受益者は、当ファンドの償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、原則として信託終了日(信託終了日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に支払いを開始します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとします。

(3) 受益権の一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、販売会社を通じて、販売会社が定める単位をもって一部解約を委託会社に請求する権利を有します。一部解約金は、原則として一部解約の実行の請求を受付けた日から起算して8営業日目から受益者に支払われます。

(4) 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。

3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35特定期間（2025年4月26日から2025年10月27日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人による監査を受けております。

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

2. 当ファンドの計算期間は6ヶ月であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。

3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35期計算期間（2025年4月26日から2025年10月27日まで）の財務諸表について、PwC Japan有限責任監査法人による監査を受けております。

1【財務諸表】

【DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	681,849,641	757,842,058
未収入金	890,554	880,947
流動資産合計	682,740,195	758,723,005
資産合計	682,740,195	758,723,005
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	21,670	20,941
未払委託者報酬	512,802	495,551
その他未払費用	356,082	364,455
流動負債合計	890,554	880,947
負債合計	890,554	880,947
純資産の部		
元本等		
元本	13,926,944,027	13,926,944,027
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	13,245,094,386	13,169,101,969
（分配準備積立金）	1,313,618,845	1,313,635,749
元本等合計	681,849,641	757,842,058
純資産合計	681,849,641	757,842,058
負債純資産合計	682,740,195	758,723,005

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第34特定期間 (自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	第35特定期間 (自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)
営業収益		
有価証券売買等損益	19,114,440	79,323,979
営業収益合計	19,114,440	79,323,979
営業費用		
受託者報酬	117,528	120,288
委託者報酬	2,781,435	2,846,819
その他費用	356,082	364,455
営業費用合計	3,255,045	3,331,562
営業利益又は営業損失()	22,369,485	75,992,417
経常利益又は経常損失()	22,369,485	75,992,417
当期純利益又は当期純損失()	22,369,485	75,992,417
期首剰余金又は期首欠損金()	13,222,724,901	13,245,094,386
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金()	13,245,094,386	13,169,101,969

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。ただし、適正な基準価額を入手できなかった場合又は入手した基準価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。
2. その他財務諸表作成のための基礎となる事項	特定期間末日の取扱い 2025年10月25日が休日のため、信託約款の規定により、当特定期間末日を2025年10月27日としております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
<p>1. 親投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1) 当期の財務諸表に計上した金額 当該親投資信託の評価額 681,849,641円</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る見込みは立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。親投資信託は、当該算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し、親投資信託の基準価額を算出しており、当ファンドは、当該基準価額を親投資信託の時価として採用しております。なお、当特定期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当特定期間において、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌特定期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>	<p>1. 親投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1) 当期の財務諸表に計上した金額 当該親投資信託の評価額 757,842,058円</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る見込みは立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。親投資信託は、当該算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し、親投資信託の基準価額を算出しており、当ファンドは、当該基準価額を親投資信託の時価として採用しております。なお、当特定期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当特定期間において、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌特定期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>

(追加情報)

親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る見込みは立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いております。そのため、ファンドとしての流動性が十分に担保できず、投資家間での公平性を保てない可能性がある等の理由から、投資信託約款に基づき、当ファンドの設定・解約の受付を停止しております。なお、当特定期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。
--

(貸借対照表に関する注記)

項目	第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
1. 受益権の総数	13,926,944,027口	13,926,944,027口
2. 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	13,245,094,386円	13,169,101,969円
3. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.0490円 (490円)	0.0544円 (544円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第34特定期間 (自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	第35特定期間 (自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)

分配金の計算方法	<p>第196期(2024年10月26日から2024年11月25日まで)</p> <p>計算期間末における収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,603,303円)より、分配対象収益は、4,145,390,599円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第202期(2025年4月26日から2025年5月26日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,704円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,618,845円)より、分配対象収益は、4,145,411,845円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>
	<p>第197期(2024年11月26日から2024年12月25日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,930円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,603,303円)より、分配対象収益は、4,145,392,529円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第203期(2025年5月27日から2025年6月25日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,411円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,624,549円)より、分配対象収益は、4,145,417,256円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>
	<p>第198期(2024年12月26日から2025年1月27日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,915円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,605,233円)より、分配対象収益は、4,145,394,444円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第204期(2025年6月26日から2025年7月25日まで)</p> <p>計算期間末における収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,629,960円)より、分配対象収益は、4,145,417,256円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>
	<p>第199期(2025年1月28日から2025年2月25日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,992円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,607,148円)より、分配対象収益は、4,145,400,436円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第205期(2025年7月26日から2025年8月25日まで)</p> <p>計算期間末における収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,629,960円)より、分配対象収益は、4,145,417,256円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>
	<p>第200期(2025年2月26日から2025年3月25日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,705円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,613,140円)より、分配対象収益は、4,145,406,141円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第206期(2025年8月26日から2025年9月25日まで)</p> <p>計算期間末における収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,629,960円)より、分配対象収益は、4,145,417,256円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>
	<p>第201期(2025年3月26日から2025年4月25日まで)</p> <p>計算期間末における収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,618,845円)より、分配対象収益は、4,145,406,141円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>	<p>第207期(2025年9月26日から2025年10月27日まで)</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,789円)、収益調整金(2,831,787,296円)、分配準備積立金(1,313,629,960円)より、分配対象収益は、4,145,423,045円(1万口当たり2,976円)であります。今期は分配を行っておりません。</p>

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第34特定期間	第35特定期間
	(自 2024年10月26日 至 2025年4月25日)	(自 2025年4月26日 至 2025年10月27日)
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左

2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンド及び主要投資対象である親投資信託が保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であり、その詳細は貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。当該金融商品には、性質に応じてそれぞれ市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等）、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミティーで、ここでは運用部、アセットマネジメント業務部、アセットマネジメントコンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況等様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用業務を行っております。また、委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2)売買目的有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)及び(重要な会計上の見積りに関する注記)に記載しております。	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左 (2)売買目的有価証券 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

最終の計算期間の損益に含まれた評価差額(円)

種類	第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
親投資信託受益証券	113,701,013	59,960,349
合計	113,701,013	59,960,349

(デリバティブ取引に関する注記)
該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)
該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第34特定期間 (2025年4月25日現在)	第35特定期間 (2025年10月27日現在)
	金額(円)	金額(円)
元本の推移		
期首元本額	13,926,944,027	13,926,944,027
期中追加設定元本額	0	0
期中一部解約元本額	0	0

(4) 【附属明細表】

有価証券明細表

(ア) 株式

該当事項はありません。

(イ) 株式以外の有価証券

種類	銘柄	口数	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	DWS ロシア・ルール債券投 信・マザーファンド	3,547,949,712	757,842,058	
合計		3,547,949,712	757,842,058	

信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

【DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）】

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	403,943,441	449,009,543
未収入金	1,928,091	1,973,644
流動資産合計	405,871,532	450,983,187
資産合計	405,871,532	450,983,187
負債の部		
流動負債		
未払受託者報酬	69,625	71,257
未払委託者報酬	1,647,560	1,686,503
その他未払費用	210,906	215,884
流動負債合計	1,928,091	1,973,644
負債合計	1,928,091	1,973,644
純資産の部		
元本等		
元本	2,610,896,532	2,610,896,532
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2,206,953,091	2,161,886,989
（分配準備積立金）	1,323,922,815	1,323,941,902
元本等合計	403,943,441	449,009,543
純資産合計	403,943,441	449,009,543
負債純資産合計	405,871,532	450,983,187

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第34期計算期間 (自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	第35期計算期間 (自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)
営業収益		
有価証券売買等損益	11,240,011	47,039,746
営業収益合計	11,240,011	47,039,746
営業費用		
受託者報酬	69,625	71,257
委託者報酬	1,647,560	1,686,503
その他費用	210,906	215,884
営業費用合計	1,928,091	1,973,644
営業利益又は営業損失()	13,168,102	45,066,102
経常利益又は経常損失()	13,168,102	45,066,102
当期純利益又は当期純損失()	13,168,102	45,066,102
期首剰余金又は期首欠損金()	2,193,784,989	2,206,953,091
分配金	-	-
期末剰余金又は期末欠損金()	2,206,953,091	2,161,886,989

(3)【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。ただし、適正な基準価額を入手できなかった場合又は入手した基準価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認められた価額で評価しております。
2.その他財務諸表作成のための基礎となる事項	計算期間末日の取扱い 2025年10月25日が休日のため、信託約款の規定により、当計算期間末日を2025年10月27日としております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
<p>1.親投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1)当期の財務諸表に計上した金額 当該親投資信託の評価額 403,943,441円</p> <p>(2)会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。親投資信託は、当該算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し、親投資信託の基準価額を算出しており、当ファンドは、当該基準価額を親投資信託の時価として採用しております。なお、当計算期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当計算期間において、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌計算期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>	<p>1.親投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1)当期の財務諸表に計上した金額 当該親投資信託の評価額 449,009,543円</p> <p>(2)会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。親投資信託は、当該算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し、親投資信託の基準価額を算出しており、当ファンドは、当該基準価額を親投資信託の時価として採用しております。なお、当計算期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当計算期間において、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌計算期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>

(追加情報)

親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いております。そのため、ファンドとしての流動性が十分に担保できず、投資家間での公平性を保てない可能性がある等の理由から、投資信託約款に基づき、当ファンドの設定・解約の受付を停止しております。なお、当計算期間末日時点においても当該取り扱いを継続しております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
1.受益権の総数	2,610,896,532口	2,610,896,532口
2.元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	2,206,953,091円	2,161,886,989円
3.1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.1547円 (1,547円)	0.1720円 (1,720円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	第34期計算期間 (自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	第35期計算期間 (自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)

分配金の計算方法	計算期間末における収益調整金(2,412,630,494円)、分配準備積立金(1,323,922,815円)より、分配対象収益は、3,736,553,309円(1万口当たり14,311円)ですが、今期は分配を行っておりません。	計算期間末における費用控除後の配当等収益(19,087円)、収益調整金(2,412,630,494円)、分配準備積立金(1,323,922,815円)より、分配対象収益は、3,736,572,396円(1万口当たり14,311円)ですが、今期は分配を行っておりません。
----------	---	--

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	第34期計算期間 (自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	第35期計算期間 (自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンド及び主要投資対象である親投資信託が保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、金銭債権及び金銭債務であり、その詳細は貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。当該金融商品には、性質に応じてそれぞれ市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等)、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミッティーで、ここでは運用部、アセットマネジメント業務部、アセットマネジメントコンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況等様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミッティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミッティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用業務を行っております。また、委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。	同左

金融商品の時価等に関する事項

項目	第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませ	同左

2.時価の算定方法	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2)売買目的有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)及び(重要な会計上の見積りに関する注記)に記載しております。	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左 (2)売買目的有価証券 同左
3.金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

計算期間の損益に含まれた評価差額(円)

種類	第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
親投資信託受益証券	11,402,482	46,876,931
合計	11,402,482	46,876,931

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	第34期計算期間 (2025年4月25日現在)	第35期計算期間 (2025年10月27日現在)
	金額(円)	金額(円)
元本の推移		
期首元本額	2,610,896,532	2,610,896,532
期中追加設定元本額	0	0
期中一部解約元本額	0	0

(4)【附属明細表】

有価証券明細表

(ア)株式

該当事項はありません。

(イ)株式以外の有価証券

種類	銘柄	口数	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	DWS ロシア・ルーブル債券投 信・マザーファンド	2,102,104,606	449,009,543	
合計		2,102,104,606	449,009,543	

信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考情報)

当ファンド(「DWS ロシア・ルーブル債券投信(毎月分配型)」及び「DWS ロシア・ルーブル債券投信(年2回決算型)」をいいます。)は「DWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、当ファンドの特定期間末日又は計算期間末日における同親投資信託の状況は次の通りです。

「DWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド」の状況

以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

(1)貸借対照表

区分	(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
預金	517,153	566,412
金銭信託	535,481	861,124
コール・ローン	33,288,682	27,747,188
投資信託受益証券	1,054,218,863	1,180,268,943
未収利息	319	266
流動資産合計	1,088,560,498	1,209,443,933
資産合計	1,088,560,498	1,209,443,933
負債の部		
流動負債		
未払解約金	2,818,645	2,854,591
流動負債合計	2,818,645	2,854,591
負債合計	2,818,645	2,854,591
純資産の部		
元本等		
元本	5,675,865,568	5,650,054,318
剰余金		
剰余金又は欠損金()	4,590,123,715	4,443,464,976
元本等合計	1,085,741,853	1,206,589,342
純資産合計	1,085,741,853	1,206,589,342
負債純資産合計	1,088,560,498	1,209,443,933

(2)注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1.有価証券の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 移動平均法に基づき、投資信託受益証券の基準価額で評価しております。ただし、時価の算定に関する会計基準の適用指針第24項の3項の取扱いを適用しており、基準価額を時価とみなしております。
2.その他財務諸表作成のための基礎となる事項	外貨建取引等の処理基準 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
<p>1.投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1)当期の財務諸表に計上した金額 当該投資信託受益証券の評価額 1,054,218,863円</p> <p>(2)会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、当親投資信託の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。なお、当計算期間末日時点においても当該取扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当計算期間において、当親投資信託の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌計算期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>	<p>1.投資信託受益証券の時価の算定</p> <p>(1)当期の財務諸表に計上した金額 当該投資信託受益証券の評価額 1,180,268,943円</p> <p>(2)会計上の見積りの内容について財務諸表利用者の理解に資するその他の情報 当期の財務諸表に計上した金額の算出方法及び算出に用いた主要な仮定 2022年2月24日以降、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始したことや、米国が制裁を強化したことを受け、当親投資信託の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。また、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いていること等から、外国籍投資信託の管理会社は、投資しているロシア債券を、2022年4月25日に実態に即して算出した価格で評価し実質ゼロ評価とし、基準価額を算出しております。なお、当計算期間末日時点においても当該取扱いを継続しております。</p> <p>翌期の財務諸表への影響 当計算期間において、当親投資信託の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、上記のように評価しております。しかし、ロシアの債券市場が平常の状態に戻る等、今後の動向の変化によって翌計算期間の財務諸表に影響を与える可能性があります。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
1.受益権の総数	5,675,865,568口	5,650,054,318口
2.元本の欠損 純資産額が元本総額を下回る場合におけるその差額	4,590,123,715円	4,443,464,976円
3.1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.1913円 (1,913円)	0.2136円 (2,136円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の状況に関する事項

項目	(自 2024年10月26日 至 2025年 4月25日)	(自 2025年 4月26日 至 2025年10月27日)
1.金融商品に対する取組方針	当親投資信託は証券投資信託として、有価証券、デリバティブ取引等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当親投資信託が保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務であり、その詳細は貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。当該金融商品には、性質に応じてそれぞれ市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク等)、流動性リスク、信用リスク等があります。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	委託会社では2つの検証機能を有しています。1つは運用評価会議で、ここではパフォーマンス分析及び定量的リスク分析が行われます。もう1つはインベストメント・コントロール・コミッティーで、ここでは運用部、アセットマネジメント業務部、アセットマネジメントコンプライアンス部から市場リスク、流動性リスク、信用リスク、運用ガイドライン・法令等遵守状況等様々なリスク管理状況が報告され、検証が行われます。このコミッティーで議論された内容は、取締役会から一部権限を委譲されたエグゼクティブ・コミッティーに報告され、委託会社として必要な対策を指示する体制がとられています。運用部ではこうしたリスク管理の結果も考慮し、次の投資戦略を決定し、日々の運用業務を行っております。また、委託会社では、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリング等を実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証等を行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。	同左
-------------------	--	----

金融商品の時価等に関する事項

項目	(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2)売買目的有価証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)及び(重要な会計上の見積りに関する注記)に記載しております。	(1)有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 同左 (2)売買目的有価証券 同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同左

投資信託受益証券のうち、「DWS ロシア・ボンド・ファンド」については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24条の3第2項の取扱いを適用しております。

(1) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24条の3第2項を適用しているため、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」第5条の2に定める事項は注記しておりません。

(2) 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」第24条の3第2項の取扱いを適用した投資信託受益証券の貸借対照表計上額は以下の通りとなります。

(2025年4月25日現在)

1,054,176,311円

(2025年10月27日現在)

1,180,221,850円

(3) 期首残高から期末残高への調整表は以下の通りとなります。

(2025年4月25日現在)

	投資信託受益証券	合計
期首残高	1,084,625,521円	1,084,625,521円
当期の損益	30,449,210円	30,449,210円
購入、売却、発行及び決済		

期末残高	1,054,176,311円	1,054,176,311円
当期の損益に計上した額のうち決算日において保有する投資信託受益証券の評価損益	30,449,210円	30,449,210円

(2025年10月27日現在)

	投資信託受益証券	合計
期首残高	1,054,176,311円	1,054,176,311円
当期の損益	126,045,539円	126,045,539円
購入、売却、発行及び決済		
期末残高	1,180,221,850円	1,180,221,850円
当期の損益に計上した額のうち決算日において保有する投資信託受益証券の評価損益	126,045,539円	126,045,539円

(4) 解約等に関する制限の内容

当親投資信託の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、ロシアの債券市場では妥当性のある個別債券の時価評価ができない状況となっております。またロシアの債券市場が平常の状態に戻る目処は立っておらず、妥当性のある時価の取得ができない状況が続いております。そのため、外国籍投資信託としての流動性が十分に担保できず、投資家間での公平性を保てない可能性がある等の理由から、外国籍投資信託管理会社の取締役会は2022年2月28日より基準価額算出の停止、当基準価額適用分より設定・解約の受付を停止することを決定しました。なお、当計算期間末日時点においても当該取扱いを継続しております。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

計算期間の損益に含まれた評価差額(円)

種類	(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
投資信託受益証券	129,985,279	10,269,438
合計	129,985,279	10,269,438

(注)「計算期間」とは当親投資信託の計算期間の期首日から本書における開示対象ファンドの特定期間末日又は計算期間末日までの期間を指しております。

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

項目	(2025年4月25日現在)	(2025年10月27日現在)
	金額(円)	金額(円)
1. 元本の推移		
期首元本額	5,700,715,150	5,675,865,568
期中追加設定元本額	0	0
期中一部解約元本額	24,849,582	25,811,250
期末元本額	5,675,865,568	5,650,054,318
2. 元本の内訳		
DWS ロシア・ルール債券投信(毎月分配型)	3,564,295,043	3,547,949,712
DWS ロシア・ルール債券投信(年2回決算型)	2,111,570,525	2,102,104,606

(3) 附属明細表

有価証券明細表

(ア) 株式

該当事項はありません。

(イ) 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託 受益証券	ユーロ	DWS フォルゾーゲ・ ゲルトマルクト	1.8582	264.57	
	小計			264.57 (47,093)	
	ロシアルール	DWS ロシア・ボン ド・ファンド	1,753,615.7568	614,698,880.37	
	小計			614,698,880.37 (1,180,221,850)	

合計			1,180,268,943 (1,180,268,943)	
----	--	--	----------------------------------	--

- (注)1.通貨種類毎の小計欄の()内は、邦貨換算額であります。
 2.小計・合計金額欄の()内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。
 3.外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入投資信託受益証券 時価比率	合計金額に 対する比率
ユーロ	投資信託受益証券 1銘柄	0.0%	0.0%
ロシアルーブル	投資信託受益証券 1銘柄	97.8%	100.0%

信用取引契約残高明細表
 該当事項はありません。

デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
 該当事項はありません。

当親投資信託は「DWS ロシア・ボンド・ファンド」投資信託受益証券及び「DWS フォルゾーゲ・ゲルトマルクト」投資信託受益証券を投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべてこれら投資信託の受益証券です。

「DWS ロシア・ボンド・ファンド」の状況

以下に記載した情報は、DWS インベストメント・エス・エーからの情報に基づき、2024年12月31日現在の財務の状況を記載したものであります。同投資信託受益証券の2024年12月31日現在の財務の状況は、ルクセンブルグの法律に基づき一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して作成されております。

同投資信託受益証券の「資産、負債の状況」、「損益計算書」、「純資産変動計算書」及び「組入資産の明細」は、2024年12月31日現在の財務書類の一部を翻訳したものです。

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。独立の監査人による監査を受けた同投資信託受益証券の財務書類から抜粋したものであります。

(1) 資産、負債の状況

	2024年12月31日現在 金額(ユーロ)
資産の部	
債券(上場有価証券)	5,995,983.73
債券(非上場有価証券)	1.64
現金	739,623.22
未収利息	34,188.54
資産合計	6,769,797.13
負債の部	
その他負債	167.59
負債合計	167.59

(2) 損益計算書

	2024年12月31日に終了した事業年度 金額(ユーロ)
収益	
受取利息	94,384.24
受取利息	34,815.29
その他収益	3,419.47
収益合計	132,619.00
費用	
その他費用	665.15
費用合計	665.15
純投資収益	131,953.85

(3) 純資産変動計算書

	2024年12月31日に終了した事業年度 金額(ユーロ)
期首純資産金額	3,381,997.40
有価証券売買損益	3,387,632.14
期末純資産金額	6,769,629.54

(4) 組入資産の明細

(2024年12月31日現在)

通貨	銘柄名	数量(千単位)	評価額(ユーロ)
	上場有価証券		
EUR	Germany 16/15.02.26	450	442,197.00
EUR	Germany 20/10.10.25 S.182	1,050	1,032,843.00
RUB	Russia 13/19.01.28 Ser.26212RFMS	100,000	0.91
RUB	Russia 15/17.09.31 Ser.26218RMFS	350,000	3.19

RUB	Russia 17/23.03.33 Ser.26221RMFS	234,700	2.14
RUB	Russia 18/10.05.34 S.6225	150,000	1.37
RUB	Russian Federation 18/23.05.29	230,000	2.10
RUB	Russian Federation 19/10.04.30	100,000	0.91
RUB	Russian Federation 19/16.03.39	300,000	2.74
RUB	Russian Federation 20/18.07.35	180,000	1.64
RUB	Russian Federation 20/17.05.28	180,000	1.64
RUB	RZD Capital/Russian Railways 16/07.10.23 LPN	210,000	1.92
USD	US Treasury 21/30.04.26	1,700	1,554,697.99
USD	Us Treasury 21/30.11.26	1,700	1,537,768.66
USD	US Treasury 24/15.01.2027	1,500	1,428,454.30
USD	VEB Finance/VEB Bank 10/22.11.25 LPN	3,000	2.88
USD	VEB Finance/VEB Bank 13/21.11.23 LPN	1,400	1.34
	小計		5,995,983.73
EUR	非上場有価証券 Rushydro Finance 17/28.09.22 LPN	180,000	1.64
	小計		1.64
	合計		5,995,985.37

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

DWS ロシア・ルーブル債券投信（毎月分配型）

(2025年11月28日現在)

資産総額	795,656,632 円
負債総額	119,339 円
純資産総額（ - ）	795,537,293 円
発行済口数	13,926,944,027 口
1口当たり純資産額（ / ）	0.0571 円
（1万口当たり純資産額）	（571 円）

DWS ロシア・ルーブル債券投信（年2回決算型）

(2025年11月28日現在)

資産総額	471,712,273 円
負債総額	361,714 円
純資産総額（ - ）	471,350,559 円
発行済口数	2,610,896,532 口
1口当たり純資産額（ / ）	0.1805 円
（1万口当たり純資産額）	（1,805 円）

(参考) DWS ロシア・ルーブル債券投信・マザーファンド

(2025年11月28日現在)

資産総額	1,267,582,468 円
負債総額	円
純資産総額（ - ）	1,267,582,468 円
発行済口数	5,647,811,523 口
1口当たり純資産額（ / ）	0.2244 円
（1万口当たり純資産額）	（2,244 円）

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

1. 名義書換について

該当事項はありません。

2. 受益者に対する特典

該当事項はありません。

3. 内国投資信託受益権の譲渡制限の内容

譲渡制限は設けておりません。ただし、受益権の譲渡の手続き及び受益権の譲渡の対抗要件は、以下によるものとします。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少及び譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社及び受託会社に対抗することができません。

4. 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

5. 償還金

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。

6. 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金及び償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1)資本金等

資本金の額

3,078百万円（2025年11月末現在）

発行する株式の総数

200,000株（2025年11月末現在）

発行済株式総数

61,560株（2025年11月末現在）

最近5年間における資本金の額の増減

該当事項はありません。

(2)委託会社の機構

委託会社は、取締役会及び監査役をおきます。

取締役及び監査役は、株主総会の決議をもって選任され、その員数は取締役については3名以上、監査役については1名以上とします。

取締役会は、取締役全員で組織され、経営に関するすべての重要事項及び法令または定款によって定められた事項につき意思決定を行います。

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する最終の事業年度に関する定時株主総会終結の時までとし、補欠または増員のために選任された取締役の任期は、他の取締役の残存任期と同一とします。

監査役は、委託会社の会計監査及び業務監査を行います。

監査役の任期は、選任後4年以内に終了する最終の事業年度に関する定時株主総会終結の時までとし、補欠のために選任された監査役の任期は、前任者の任期の残存期間とします。

(投資信託の運用プロセス)

四半期毎に行われる投資戦略会議において、DWSグループ（グローバル）からの情報を参考にしつつ、各投資対象についての市場見通し並びに大まかな運用方針を決定します。

運用担当者は、投資戦略会議の方針にしたがって各ファンドの運用計画を作成し、運用部長の承認を得ます。その際、必要に応じてグループ内の投資環境調査やモデルポートフォリオを参考にします。

承認された運用計画にしたがって、運用担当者は売買を指示し、ポートフォリオの構築を行います。その際ファンドによっては、外部運用機関と投資助言契約もしくは運用委託契約を結んだ上で運用を行う場合があります。各拠点で運用ガイドライン・モニタリングを担当するチームが、個々の売買についてガイドライン違反等がないか速やかにチェックを行います。

運用評価会議では、各ファンドの運用成績を分析するとともに、運用に際して取っているアクティブリスクの状況や他ファンドとの均一性についてレビューを行い、今後の運用へのフィードバックを行います。

インベストメント・コントロール・コミッティーにおいて、ガイドラインの遵守状況や運用上の改善すべき点等について検討を行います。

アセットマネジメントコンプライアンス部は、運用部から独立した立場で、ガイドライン遵守状況及び利益相反取引のチェックを行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

投信法に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに金融商品取引法に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また金融商品取引法に定める投資助言・代理業務、第一種金融商品取引業務及び第二種金融商品取引業務を行っています。

2025年11月末現在、委託会社の運用するファンドは63本、純資産総額は865,307百万円です(ただし、親投資信託を除きます。)。ファンドの種類別の本数及び純資産総額は下記の通りです。

種類			本数	純資産総額
公募	追加型	株式投資信託	50本	198,186百万円
私募	単位型	株式投資信託	1本	826百万円
	追加型	株式投資信託	12本	666,295百万円
合計			63本	865,307百万円

3【委託会社等の経理状況】

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)第2条に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てにより記載しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位:千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)		当事業年度 (2025年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
預金	1	3,566,951	1	4,328,664
前払費用		53,483		53,664
未収委託者報酬		421,696		435,871
未収収益	1	1,746,442	1	1,358,487
未収還付消費税		-		18,554
立替金		41,199		29,739
その他の流動資産		-		9,603
流動資産計		5,829,774		6,234,586
固定資産				
投資その他の資産				
投資有価証券		1,105		552
敷金		28,459		31,192
供託金		10,000		10,000
預託金		1,000		1,000
未収入金		-		78,613
貸倒引当金		-		78,613
投資その他の資産合計		40,565		42,744
固定資産合計		40,565		42,744
資産合計		5,870,339		6,277,331

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
預り金	223,520	247,834
未払手数料	187,471	195,303
その他未払金	72,968	6,882
未払費用	1,195,329	1,653,579
未払消費税	8,654	-
未払法人税等	39,086	53,693
賞与引当金	121,599	120,190
その他の流動負債	17,692	263
流動負債合計	1,866,323	2,277,748
固定負債		
退職給付引当金	406,706	383,178
長期未払費用	27,474	61,821
賞与引当金	47,037	30,334
繰延税金負債	84	47
固定負債合計	481,302	475,382
負債合計	2,347,626	2,753,130
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,078,000	3,078,000
資本剰余金		
資本準備金	1,830,000	1,830,000
資本剰余金合計	1,830,000	1,830,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,385,478	1,383,907
利益剰余金合計	1,385,478	1,383,907
株主資本合計	3,522,521	3,524,092
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	191	108
評価・換算差額等合計	191	108
純資産合計	3,522,713	3,524,200
負債純資産合計	5,870,339	6,277,331

(2) 【損益計算書】

(単位:千円)

	前事業年度 (自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日)	当事業年度 (自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日)
営業収益		
委託者報酬	3,033,825	3,047,653
運用受託報酬	224	177
その他営業収益	3,007,179	3,121,585
営業収益合計	6,041,228	6,169,416
営業費用		
支払手数料	1,406,573	1,389,203
広告宣伝費	20,134	29,096
公告費	-	540
調査費	125,890	116,288
委託調査費	426,339	476,907
情報機器関連費	137,104	132,217
委託計算費	202,709	188,834
通信費	8,824	8,657
印刷費	10,663	5,383
協会費	11,017	2,575
諸会費	1,038	792
諸経費	24,718	32,487
営業費用合計	2,375,014	2,382,985
一般管理費		
役員報酬	90,996	136,745
給料・手当	1,097,901	1,046,523
賞与	418,805	545,828
交際費	4,628	13,761
旅費交通費	21,419	32,368
租税公課	57,241	47,030
不動産賃借料	329,400	654,902
退職給付費用	98,469	88,234
福利厚生費	316,749	301,077
業務委託費	1 774,694	1 646,334
退職金	-	1,790
諸経費	110,740	133,704
一般管理費合計	3,321,046	3,648,301
営業利益	345,167	138,129
営業外収益		
有価証券売却益	2,999	-
有価証券償還益	-	189
雑収益	7,477	8,620
営業外収益合計	10,477	8,809
営業外費用		
貸倒引当金繰入	-	78,613
為替差損	63,399	15,672
有価証券売却損	2	-
雑損失	2,736	656

営業外費用合計	66,138	94,943
経常利益	289,505	51,995
特別損失		
割増退職金	162,037	-
特別損失合計	162,037	-
税引前当期純利益	127,468	51,995
法人税、住民税及び事業税	45,706	50,424
法人税等合計	45,706	50,424
当期純利益	81,761	1,570

(3)【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
		資本準備金	その他利益剰余金	
			繰越利益剰余金	
当期首残高	3,078,000	1,830,000	1,467,239	3,440,760
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	81,761	81,761
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	81,761	81,761
当期末残高	3,078,000	1,830,000	1,385,478	3,522,521

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	1,587	1,587	3,442,347
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	-
当期純利益	-	-	81,761
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	1,395	1,395	1,395
当期変動額合計	1,395	1,395	80,365
当期末残高	191	191	3,522,713

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位:千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	
当期首残高	3,078,000	1,830,000	1,385,478	3,522,521
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	-
当期純利益	-	-	1,570	1,570
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	1,570	1,570
当期末残高	3,078,000	1,830,000	1,383,907	3,524,092

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	191	191	3,522,713
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	-
当期純利益	-	-	1,570
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	83	83	83
当期変動額合計	83	83	1,487
当期末残高	108	108	3,524,200

注記事項

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券（市場価格のない株式等以外のもの）

当事業年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

2．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

3．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員等に対する賞与の支払及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の支払に備えるため、当社所定の計算基準により算出した支払見込額の当事業年度負担分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員等の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を翌期から費用処理することとしております。

4．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建の金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5．収益の計上基準

当社は、投資運用業の契約に基づき顧客の資産を管理・運用する義務を負っています。契約における履行義務の充足に伴い、契約により定められたサービス提供期間にわたって収益を認識しております。具体的には以下の通りです。委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産価額に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき月末純資産価額に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。また、当社の関係会社から受取る運用受託報酬及び振替収益は、関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識しております。

（貸借対照表関係）

1 各科目に含まれている関係会社に対するものは以下のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
預金	2,930,930 千円	3,437,566 千円
未収収益	2,433 千円	72,964 千円
未払費用	188,760 千円	192,310 千円

（損益計算書関係）

1 関係会社に対するものは以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
業務委託費	389,267 千円	352,655 千円

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	61,560	-	-	61,560

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	61,560	-	-	61,560

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当会計期間末(2025年3月31日)

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。

(単位:千円)

	当会計期間 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1年以内	58,321
1年超	143,921
合計	202,242

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は顧客資産について投資助言・代理及び投資運用業務等を行っており、業務上必要と認められる場合以外は、自己勘定による資金運用は行っておりません。預金については全て決済性の当座預金であります。また、銀行借入や社債等による資金調達は行っておりません。

デリバティブについても、外貨建営業債権及び債務の為替変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

当座預金並びに営業債権である未収委託者報酬、未収運用受託報酬及び未収収益は、取引先の信用リスクに晒されています。預金に関するリスクは、当社の社内規程に従い、取引先の信用リスクのモニタリングを行っており、営業債権に関するリスクは、取引先毎の期日管理及び残高管理を実施し、主要な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券は当社設定の投資信託に対するシードマネーであり、業務上の必要性から保有しているもので、投資額も必要最低額であるため、市場価格の変動リスク、市場の流動性リスクは限定的であります。

外貨建営業債権及び債務は為替変動リスクに晒されており、通貨別に把握された為替の変動リスクに対して先物為替予約によりリスクの回避を実施しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、社内規程に基づいて取引、記帳及び取引先との残高照合等を行っております。営業債務に関する流動性リスクについては、経理部において資金繰りをモニタリングしております。

上記、信用、市場、為替リスクに関する事項は、社内規程に基づいて定期的に社内委員会に報告され、審議、検討を行っております。また、流動性リスクに関する事項につきましても逐次、社内担当役員に報告されております。

2. 金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びレベルごとの内訳等については、以下のとおりであります。

前事業年度（2024年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	1,105	1,105	-
資産計	1,105	1,105	-
デリバティブ取引（*1）			
ヘッジ会計が適用されていないもの	(427)	(427)	-
デリバティブ取引計	(427)	(427)	-

（*1）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（*2）預金、預り金、未払金、未収収益及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じ、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

前会計期間末（2024年3月31日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券	-	1,105	-	1,105
資産計	-	1,105	-	1,105
デリバティブ取引				
通貨関連	-	427	-	427
負債計	-	427	-	427

(注) 1. 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は基準価額を用いて評価しており、当該基準価額は活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2に分類しております。

デリバティブ取引

先渡為替予約の時価については、為替相場等観察可能な市場データに基づいて取引先金融機関等が算定したデータを使用して評価しているため、レベル2に分類しております。

(注) 2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超
預金	3,566,951	-	-
未収委託者報酬	421,696	-	-
未収収益	1,746,442	-	-
投資有価証券			
其他有価証券	567	-	129
合計	5,735,658	-	129

(注) 償還期間が見込めないものについては表中に記載を行わず、除外しております。

当事業年度（2025年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券 その他有価証券	552	552	-
未収入金 貸倒引当金（*1）	78,613 (78,613)		
	-	-	-
資産計	552	552	-
デリバティブ取引（*2） ヘッジ会計が適用されていないもの	(263)	(263)	-
デリバティブ取引計	(263)	(263)	-

（*1）未収入金に係る貸倒引当金を控除しております。

（*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（*3）預金、預り金、未払金、未収収益及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じ、以下の3つのレベルに分類しております。

- レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価
- レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で貸借対照表に計上している金融商品

当会計期間末（2025年3月31日）

（単位：千円）

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 その他有価証券	-	552	-	552
資産計	-	552	-	552
デリバティブ取引 通貨関連	-	263	-	263
負債計	-	263	-	263

（注）1．時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は基準価額を用いて評価しており、当該基準価額は活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2に分類しております。

デリバティブ取引

先渡為替予約の時価については、為替相場等観察可能な市場データに基づいて取引先金融機関等が算定したデータを使用して評価しているため、レベル2に分類しております。

(注) 2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超
預金	4,328,664	-	-
未収委託者報酬	435,871	-	-
未収収益	1,358,487	-	-
投資有価証券			
その他有価証券		128	-
合計	6,123,023	128	-

(注) 償還期間が見込めないものについては表中に記載を行わず、除外しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度（2024年3月31日）

(単位:千円)

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	その他	1,105	828	276
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	その他	-	-	-
合計		1,105	828	276

当事業年度（2025年3月31日）

(単位:千円)

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	その他	552	396	155
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	その他	-	-	-
合計		552	396	155

2. 売却したその他有価証券

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	10,696	2,999	2

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
その他	634	189	-

(注) 上記その他有価証券の「売却額」、「売却益」には「償還額」、「償還益」が含まれております。

（デリバティブ取引関係）

ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物は通貨のみであり、貸借対照表日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。

前事業年度（2024年3月31日）

通貨関連（時価の算定方法は、先物為替相場によっております。）（単位：千円）

区分	為替予約取引	契約額等			時価	評価損益
				うち1年超		
市場取引以外の取引	売建					
	ユーロ	533,171	-	296	296	
	買建					
	ユーロ	26,233	-	131	131	
合計		559,405	-	427	427	

当事業年度（2025年3月31日）

通貨関連（時価の算定方法は、先物為替相場によっております。）（単位：千円）

区分	為替予約取引	契約額等			時価	評価損益
				うち1年超		
市場取引以外の取引	売建					
	ユーロ	218,913	-	524	524	
	買建					
	ユーロ	293,238	-	260	260	
合計		512,151	-	263	263	

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職一時金制度と確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
退職給付債務の期首残高		494,477		398,884
勤務費用		52,890		47,279
利息費用		6,531		6,956
数理計算上の差異の発生額		3,477		17,262
退職給付の支払額		151,934		66,498
転籍者調整額		395		7,533
退職給付債務の期末残高		398,884		361,825

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務		398,884		361,825
未積立退職給付債務		398,884		361,825
未認識数理計算上の差異		7,822		21,352
貸借対照表に計上された負債の純額		406,706		383,178
退職給付引当金		406,706		383,178
貸借対照表に計上された負債の純額		406,706		383,178

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
勤務費用		52,890		47,279
利息費用		6,531		6,956
数理計算上の差異の費用処理額		2,452		3,732
確定給付制度に係る退職給付費用		56,970		50,504

(4) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前事業年度		当事業年度	
	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
割引率		1.75%		2.26%

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度41,498千円、当事業年度 37,730千円でありました。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	（単位：千円）	
	前事業年度 （2024年3月31日）	当事業年度 （2025年3月31日）
繰延税金資産		
繰越欠損金	653,069	623,579
未払費用	287,979	277,782
減価償却超過額	172,876	217,794
退職給付引当金	124,533	120,777
賞与引当金	52,468	46,491
貸倒引当金	-	24,779
長期未払費用	7,580	18,917
未払事業税	9,167	8,428
その他未払金	22,342	-
その他	1,578	1,507
繰延税金資産小計	1,331,597	1,340,060
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額（注2）	653,069	623,579
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	678,527	716,480
評価性引当額小計（注1）	1,331,597	1,340,060
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	84	47
繰延税金負債合計	84	47
繰延税金資産（負債）の純額	84	47

（注1）評価性引当額が8,463千円増加しております。主な要因は、所得税法等の一部を改正する法律（令和7年法律第13号）に基づく、2027年4月以降に解消する見込みである繰延税金資産の認識額増加によるもの及び当期の見込みの課税所得に対して充当される繰越欠損金に対する評価性引当額の取り崩しによる減少によるものであります。

（注2）税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前事業年度（2024年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金（*1）	-	-	-	-	-	653,069	653,069
評価性引当額	-	-	-	-	-	653,069	653,069
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

（*1）税務上の繰越欠損金は法定実効税率を乗じた額であります。

当事業年度（2025年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金（*1）	-	-	-	-	302,181	321,397	623,579
評価性引当額	-	-	-	-	302,181	321,397	623,579
繰延税金資産	-	-	-	-	-	-	-

（*1）税務上の繰越欠損金は法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

（単位：％）

	前事業年度 （2024年3月31日）	当事業年度 （2025年3月31日）
法定実効税率	30.6	30.6
（調整）		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	5.4
役員賞与等永久に損金に算入されない項目	22.5	96.1
評価性引当額	24.4	37.8
その他	5.8	2.7
税効果会計適用後の法人税の負担率	35.9	97.0

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。これに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。この変更による影響は軽微であります。

（収益認識関係）

- 顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、注記事項（セグメント情報等）に記載のとおり、当社は投資運用業の単一セグメントであり、製品・サービスの区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、記載を省略しております。
- 収益を理解するための基礎となる情報は「重要な会計方針5.収益の計上基準」に記載のとおりであります。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	米国	ルクセンブルク	ドイツ	その他	合計
3,044,418	1,056,103	802,105	717,975	420,625	6,041,228

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、記載しておりません。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める主要な顧客は以下のとおりです。

（単位：千円）

相手先	営業収入	関連するセグメント
RREEF America L.L.C.	1,038,529	投資運用業
DWS Investment S.A.	802,105	投資運用業

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

当事業年度（自 2024年 4月 1日 至 2025年 3月 31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	米国	ルクセンブルク	ドイツ	その他	合計
3,047,830	1,152,050	654,578	641,784	673,171	6,169,416

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、記載していません。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める主要な顧客は以下のとおりです。

（単位：千円）

相手先	営業収入	関連するセグメント
RREEF America L.L.C.	1,135,864	投資運用業
DWS Investment S.A.	654,578	投資運用業

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

前事業年度（自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月 31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	Deutsche Bank Aktiengesellschaft	ドイツ フランクフルト	5,106,436千ユーロ	銀行業	(被所有) 100%	資金預入			現金預金	2,930,930
親会社	DWS Group GmbH & Co. KGaA	ドイツ フランクフルト	200,000千ユーロ	投資運用業	(被所有) 100%	サービスの授受	PL 11. 管理顧問サービス	275,291	未払費用	188,760

当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	Deutsche Bank Aktiengesellschaft	ドイツ フランクフルト	4,987 百万ユーロ	銀行業	(被所有) 間接 79 %	資金預入 サービスの提供	*2 IT, 管理部門サービス	137,470	*1 預金 未収収益	3,437,566 70,850
親会社	DWS Group GmbH & Co. KGaA	ドイツ フランクフルト	200,000 千ユーロ	投資運用業	(被所有) 直接 100 %	サービスの提供	*2 IT, 管理部門サービス *3 その他営業収益	215,184 2,099	未収収益 未払費用	2,114 192,310

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- *1 当座預金口座を開設しております。
- *2 当該会社とのサービス契約に基づき、当社のIT環境、総務購買部門等の管理部門業務に関連し支出した費用の計上を行っております。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	ドイツ証券株式会社	東京都 千代田区	49,798 百万円	証券業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT, 管理部門サービス	492,005	未払費用	341,610
同一の親会社を持つ会社	REEEF America L.L.C.	米国 ウィルミントン	10 千ドル	投資運用業	なし	サービスの授受	*3 その他営業収益	1,038,529	未収収益	408,798
同一の親会社を持つ会社	DWS Investment Management Americas Inc.	米国 ウィルミントン	10 ドル	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT, 管理部門サービス *3 その他営業収益	98,284 10,058	未収収益	108,432
同一の親会社を持つ会社	DWS Investment GmbH	ドイツ フランクフルト	115,000 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受 運用の再委託	*2 IT, 管理部門サービス *3 その他営業収益 *4 委託費	33,706 43,193 329,647	未払収益 未払費用	81,840 264,010
同一の親会社を持つ会社	DWS Investment S.A.	ルクセンブルク ルクセンブルク	30,677 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受	*3 その他営業収益	802,105	未収収益	400,795
同一の親会社を持つ会社	DWS International GmbH	ドイツ フランクフルト	8,000 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受	*3 その他営業収益	215,004	未収収益	137,705
同一の親会社を持つ会社	DWS Group Services UK Limited	英国 ロンドン	21,500 千ポンド	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT, 管理部門サービス	94,997	未払費用	91,410
同一の親会社を持つ会社	DWS Asset Mgmt (Korea) Co Ltd.	韓国 ソウル	19,410,825 千韓国ウォン	投資運用業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT, 管理部門サービス *3 その他営業収益	9,921 31,976	未収収益	67,093

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- *1 当座預金口座を開設しております。
- *2 当該会社とのサービス契約ないし、当社のIT環境、総務購買部門等の管理部門業務に関連し支出した費用若しくは受領した収益の計上を行っております。
- *3 当該会社とのサービス契約に基づき、予め定められた料率で計算された収益の計上を行っております。
- *4 当該会社とのサービス契約に基づき、発生した費用の計上を行っております。

当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社 を持つ会社	ドイツ証券 株式会社	東京都 千代田区	43,796 百万円	証券業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT、管理部門サービス 815,937	未払費用	794,819	
同一の親会社 を持つ会社	RREEF America L.L.C.	米国 ウィルミントン	10 千ドル	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 1,115,964	未収収益	312,727	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investment Management American Inc.	米国 ウィルミントン	10 ドル	投資運用業	なし	サービスの授受 運用の再委託	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 *4 委託費 73,125 2,318 2,298	未収収益 未払費用	14,110 101,837	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investment GmbH	ドイツ フランクフルト	115,000 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受 運用の再委託	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 *4 委託費 62,500 94,328 979,789	未収収益 未払費用	83,063 249,288	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investment S.A.	ルクセンブルク ルクセンブルク	30,877 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 229,537 624,578	未収収益 未払費用	236,302 9,781	
同一の親会社 を持つ会社	DWS International GmbH	ドイツ フランクフルト	8,000 千ユーロ	投資運用業	なし	サービスの授受 運用の再委託	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 *4 委託費 3,968 295,331 73,298	未収収益 未払費用	154,826 89,988	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investments UK Limited	英国 ロンドン	82,000 千ポンド	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 36,045 424,688	未収収益 未払費用	169,029 4,257	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Group Services UK Limited	英国 ロンドン	21,500 千ポンド	投資運用業	なし	サービスの授受	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 119,584 2,318	未収収益 未払費用	2,992 111,428	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investments Singapore Limited	シンガポール シンガポール	88,700 千 シンガポールドル	投資運用業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 42,439 74,918	未収収益	66,233	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Asset Mgmt (Korea) Co Ltd.	韓国 ソウル	19,410,825 千韓国ウォン	投資運用業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 2,679 49,999	未収収益	65,424	
同一の親会社 を持つ会社	DWS Investments Hong Kong Limited	香港 香港	235,600 千 香港ドル	投資運用業	なし	サービスの授受 役員の兼任	*2 IT、管理部門サービス *9 その他営業収益 193,817 35,446	未収収益 未払費用	50,039 112,202	

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- *1 当座預金口座を開設しております。
- *2 当該会社とのサービス契約ないし、当社のIT環境、総務購買部門等の管理部門業務に関連し支出した費用若しくは受領した収益の計上を行っております。
- *3 当該会社とのサービス契約に基づき、予め定められた料率で計算された収益の計上を行っております。
- *4 当該会社とのサービス契約に基づき、発生した費用の計上を行っております。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

Deutsche Bank Aktiengesellschaft フランクフルト証券取引所に上場
DB Beteiligungs-Holding GmbH ニューヨーク証券取引所に上場
DWS Group GmbH & Co. KGaA フランクフルト証券取引所に上場

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
1株当たり純資産額	57,224.06 円	57,248.22 円
1株当たり当期純利益	1,328.15 円	25.51 円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
当期純利益(千円)	81,761	1,570
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株主に係る当期純利益(千円)	81,761	1,570
期中平均株式数(株)	61,560	61,560

1. 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づき、同規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第3号の上欄に掲げる会社に該当し、財務諸表等規則第1編及び第4編の規定により第2種中間財務諸表を作成しております。

中間財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てにより記載しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	当中間会計期間末 (2025年9月30日)
資産の部	
流動資産	
預金	4,876,669
前払費用	23,845
未収消費税等	19,730
未収委託者報酬	441,260
未収収益	970,963
立替金	31,302
為替予約	253
流動資産計	6,364,025
固定資産	
投資その他の資産	
投資有価証券	594
敷金	28,475
供託金	10,000
預託金	1,000
未収入金	78,613
貸倒引当金	78,613
投資その他の資産計	40,070
固定資産計	40,070
資産合計	6,404,096

(単位：千円)

		当中間会計期間末 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
預り金		46,842
未払金		199,901
未払手数料		195,012
その他未払金		4,889
未払費用		1,706,525
未払法人税等		57,635
賞与引当金		349,471
流動負債計		2,360,374
固定負債		
長期未払費用		59,550
退職給付引当金		372,433
賞与引当金		30,945
繰延税金負債		110
固定負債計		463,040
負債合計		2,823,414
純資産の部		
株主資本		
資本金		3,078,000
資本剰余金		
資本準備金		1,830,000
資本剰余金計		1,830,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		1,327,406
繰越利益剰余金		1,327,406
利益剰余金計		1,327,406
株主資本計		3,580,593
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		87
評価・換算差額等計		87
純資産合計		3,580,681
負債・純資産合計		6,404,096

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業収益	
委託者報酬	1,447,828
運用受託報酬	67
その他営業収益	1,811,448
営業収益計	3,259,343
営業費用	
支払手数料	651,739
その他営業費用	631,517
営業費用計	1,283,256
一般管理費	1,896,150
営業利益	79,936
営業外収益	7,242
営業外費用	8,284
経常利益	78,893
特別損失	
割増退職金	7,658
特別損失合計	7,658
税引前中間純利益	71,235
法人税、住民税及び事業税	14,734
法人税等合計	14,734
中間純利益	56,500

注記事項

重要な会計方針

	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>其他有価証券 市場価格のない株式等以外のもの 当中間会計期間末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。</p>
2. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	<p>時価法を採用しております。</p>
3. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員等に対する賞与の支払及び親会社の運営する株式報酬制度に係る将来の支払に備えるため、当社所定の計算基準により算出した支払見込額の当中間会計期間負担分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異の費用処理方法 数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を翌期から費用処理することとしております。</p>
4. 収益の計上基準	<p>当社は、投資運用業の契約に基づき顧客の資産を管理・運用する義務を負っています。</p> <p>契約における履行義務の充足に伴い、契約により定められたサービス提供期間にわたって収益を認識しております。具体的には以下の通りです。</p> <p>委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産価額に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>運用受託報酬は、対象顧客との投資一任契約に基づき月末純資産価額に対する一定割合として運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p>また、当社の関係会社から受取る運用受託報酬及び振替収益は、関係会社との契約で定められた算式に基づき月次で認識しております。</p>
5. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建の金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>

（リース取引関係）

当中間会計期間末（2025年9月30日）

（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は以下のとおりであります。

（単位：千円）

	当中間会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）
1年以内	62,083
1年超	111,938
合計	174,022

（金融商品関係）

当中間会計期間末（2025年9月30日）

金融商品の時価等に関する事項

2025年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。

（単位：千円）

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券 その他有価証券	594	594	-
未収入金 貸倒引当金（*1）	78,613 (78,613)		
	-	-	-
資産計	594	594	-
デリバティブ取引（*2） ヘッジ会計が適用されていないもの	253	253	-
デリバティブ取引計	253	253	-

（*1）未収入金に係る貸倒引当金を控除しております。

（*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

（*3）預金、未収委託者報酬、未収収益、未払手数料及び未払費用は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じ、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

当中間会計期間末（2025年9月30日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
其他有価証券	-	594	-	594
資産計	-	594	-	594
デリバティブ取引				
通貨関連	-	253	-	253
負債計	-	253	-	253

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

当社が保有している投資信託は基準価額を用いて評価しており、当該基準価額は活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2に分類しております。

デリバティブ取引

先渡為替予約の時価については、為替相場等観察可能な市場データに基づいて取引先金融機関等が算定したデータを使用して評価しているため、レベル2に分類しております。

(有価証券関係)

当中間会計期間末（2025年9月30日）

其他有価証券

(単位:千円)

	種類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	その他	594	396	198
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	その他	-	-	-
合計		594	396	198

(デリバティブ取引関係)

当中間会計期間末（2025年9月30日）

ヘッジ会計が適用されていないもの

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物は通貨のみであり、中間貸借対照表日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。

通貨関連（時価の算定方法は、先物為替相場によっております。）

(単位:千円)

区分	取引の種類	契約額等		時価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建	827,724	-	193	193
	ユーロ				
	買建 ユーロ	368,653	-	447	447
合計		1,196,378	-	253	253

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、注記事項（セグメント情報等）に記載のとおり、当社は投資運用業の単一セグメントであり、製品・サービスの区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、セグメント情報に追加して記載することを省略しております。

（セグメント情報等）

セグメント情報

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

関連情報

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

製品・サービスの区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

（単位：千円）

日本	米国	英国	その他	合計
1,447,895	628,026	426,147	757,275	3,259,343

営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

当社は有形固定資産を保有していないため、記載しておりません。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益の10%以上を占める主要な顧客は以下のとおりです。

（単位：千円）

相手先	営業収入	関連するセグメント
RREEF America L.L.C.	624,933	投資運用業
DWS Investments UK Limited	428,621	投資運用業

報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

該当事項はありません。

報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	当中間会計期間末 (2025年 9 月30日)
1 株当たり純資産額	58,165円71銭
1 株当たり中間純利益額	917円81銭

- (注) 1 . 潜在株式調整後1株当たり中間純利益額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 . 1株当たり中間純利益額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	当中間会計期間 (自 2025年 4 月 1 日 至 2025年 9 月30日)
中間純利益額(千円)	56,500
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る中間純利益額(千円)	56,500
普通株式の期中平均株式数(株)	61,560

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、金融商品取引法の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1)自己またはその取締役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (2)運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。
- (3)通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)及び(5)において同じ。）または子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引または金融デリバティブ取引を行うこと。
- (4)委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5)上記(3)及び(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

(1)定款の変更

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

(2)訴訟その他重要事項

委託会社及びファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

受託会社

名 称	野村信託銀行株式会社
資本金の額	50,000百万円（2025年3月末現在）
事業の内容	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

販売会社

名 称	資本金の額	事業の内容
野村證券株式会社	10,000百万円 （2025年3月末現在）	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
S M B C日興証券株式会社	135,000百万円 （2025年3月末現在）	
岩井コスモ証券株式会社（注）	13,500百万円 （2025年3月末現在）	
株式会社S B I証券	54,323百万円 （2025年3月末現在）	
楽天証券株式会社	19,495百万円 （2024年12月末現在）	
松井証券株式会社	11,945百万円 （2025年3月末現在）	
株式会社福岡銀行	82,329百万円 （2025年3月末現在）	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
PayPay銀行株式会社	72,216百万円 （2025年3月末現在）	
株式会社熊本銀行	10,000百万円 （2025年3月末現在）	
株式会社十八親和銀行	36,878百万円 （2025年3月末現在）	

（注）年2回決算型のみを取扱いとなります。

2【関係業務の概要】

受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理、基準価額の計算、外国証券を保管・管理する外国の金融機関への指図等を行います。

販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金・償還金及び一部解約金の支払い等を行います。

3【資本関係】

委託会社と他の関係法人との間に資本関係はありません。

第3【参考情報】

下記の書類が関東財務局長に提出されています。

2025年5月7日 臨時報告書

2025年7月25日 有価証券報告書

2025年8月1日 臨時報告書

独立監査人の監査報告書

2025年6月10日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

関 賢二

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第41期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発

生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年1月7日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているDWS ロシア・ルーブル債券投信(毎月分配型)の2025年4月26日から2025年10月27日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、DWS ロシア・ルーブル債券投信(毎月分配型)の2025年10月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な会計上の見積りの注記に記載されているとおり、ロシア債券の取引が事実上困難な状態が継続していることから、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、外国籍投資信託の管理会社は当特定期間末日で実態に即して算出した価格で評価し、その結果実質ゼロ評価とすることで外国籍投資信託の基準価額を算出している。親投資信託は、算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し基準価額を算出しており、ファンドは、親投資信託の基準価額を時価として採用している。

また、追加情報に記載されているとおり、投資家間での公平性を保てない可能性がある等の理由から、ファンドは設定・解約の受付を停止しており、当特定期間末日においても当該取り扱いを継続している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年1月7日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
取締役会 御中

PwC Japan有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているDWS ロシア・ルーブル債券投信(年2回決算型)の2025年4月26日から2025年10月27日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、DWS ロシア・ルーブル債券投信(年2回決算型)の2025年10月27日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

強調事項

重要な会計上の見積りの注記に記載されているとおり、ロシア債券の取引が事実上困難な状態が継続していることから、親投資信託受益証券の投資先である外国籍投資信託が投資しているロシア債券について、外国籍投資信託の管理会社は当計算期間末日で実態に即して算出した価格で評価し、その結果実質ゼロ評価とすることで外国籍投資信託の基準価額を算出している。親投資信託は、算出された基準価額を外国籍投資信託の時価として採用し基準価額を算出しており、ファンドは、親投資信託の基準価額を時価として採用している。

また、追加情報に記載されているとおり、投資家間での公平性を保てない可能性がある等の理由から、ファンドは設定・解約の受付を停止しており、当計算期間末日においても当該取り扱いを継続している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2025年12月4日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

関 賢二

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第42期事業年度の中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の2025年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者及び監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

(注)2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。